

然レトモ吾人ハ日本外相カ滿領ニ於テ蘇滿國境ニ築造セラレタル軍事施設ニハ非スシテ蘇領ニ於テ建設セラレタル施設ニ對シ特別ノ注意ヲ拂フヘキコトヲ蘇政府ニ求メ居ルモノト思惟ス吾人カ斯ル付度ヲ爲スハ最近數箇月間對蘇戰爭ヲ唱ヘツツアリシ一部日本新聞カ蘇領ニ於ケル施設問題ヲ提起セルニ依ル然レトモ公然戰爭ヲ唱ヘツツアル冒險者流ニ取りテハ當然ノ事ヲ（蘇聯トノ眞摯ナル協同）ヲ求メツツアル責任アル日本外交指導者ノ口ヨリ聞クハ奇異ナリ我國境ノ軍備ノ目的カ日本外相ニ取り絶對的ニ明瞭ナルハ

疑無ク軍備ハ專ラ蘇聯ノ防護ニアリ故ニ他ノ諸國トハ異リ「ボロシイロフ」ハ具體的資料ヲ掲ケ我國境ノ強化ヲ公然口ニセリ蘇聯カ攻撃ニ對スル自國國境擁護ノ凡ユル手段ヲ講シツツアルハ蘇聯ニ取りテハ何等秘密トスルノ要ナシ右ハ無責任ナル分子ノ冒險心ヲ挫キ且彼等カ斯ル試ヲ恐ルル團體ニ對シ事ノ容易ナルヲ説得スルノ可能ヲ失ハシムヘキヲ以テナリ廣田氏カ其ノ演說ニ於テ日蘇關係ニ好影響ヲ及ホササルヘキ思想ノ表明者トナリタルコトニ付重ネテ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得ス

二 國際連盟における諸問題

6

昭和10年1月3日 在オランダ武富(敏彦)公使より
広田外務大臣宛(電報)

安達常設國際司法裁判所判事の葬儀の状況に

ついて

ハーグ 1月3日後発
本省 1月4日前着

第一號

貴電第二〇七號後段ニ關シ

三日早朝安達邸ニ於テ貴電第二〇九號勅旨ヲ御受ケシタル後靈柩ヲ平和宮ニ移シ十時半ヨリ同宮正面大「ホール」ニ於テ告別式開始セラレ式場ニハ當國皇帝陛下及白耳義國皇帝陛下ノ御名代御差遣アリ當國駐在外交團及文武諸高官並ニ一般參會者多數參列ノ下ニ蘭國外務大臣始メ在歐諸國際團體代表者ノ弔辭アリ其ノ間莊重ナル名悲曲奏樂ヲ交ヘ正午前極メテ嚴肅ナル式ヲ終リ直ニ「ヘーグ」市中央墓地ノ行進式ニ移リタルカ陸軍儀仗兵ヲ前後ニ遺族ノ外前記各御

名代武者小路大使(葬儀參列ノ爲ノ帝國政府代表者)當國外務大臣國際司法裁判所長及各判事有田大使及當公使館員當國各省大臣軍司令官州知事市長等靈柩ニ扈從シ堵列セル沿道市民ノ弔意ヲ受ケツツ墓地ニ着キ假埋葬式ヲ行ヒ本使ヨリ謝辭國際司法裁判所長ヨリ最後ノ別辭ヲ述ヘ儀仗兵捧ゲ銃君ガ代吹奏ノ後散會茲ニ當國ニ於テハ近來稀ニ見ルノ盛儀ヲ以テ午後一時半葬儀ヲ終レリ

尙此處數日間ニ内地及諸外國ノ諸知友ヨリ何レモ懇篤ナル多數ノ弔辭弔電ヲ受ケ又當國ハ素ヨリ歐洲諸國政府又ハ首腦者中ヨリモ深甚ナル弔意ヲ表セラレタルニ對シ遺族ハ深く感謝シ居レリ

7

昭和10年1月9日 広田外務大臣より
在ジュネーブ横山(正幸)國際會議事務局長代理兼總領事宛(電報)

麻薬製造制限条約我が方留保に対する未回答
国に対し異議なきものと認める旨の回章を事

務総長より発送申入れ方訓令

本省 1月9日後8時発

第四號

麻薬條約我方留保ニ同意セル國ハ今日迄接到セル貴方報告ニ依レバ廿六ヶ國ニ達シタルモ其ノ他未回答國尙卅一ヶ國ヲ算ス然ルニ當方トシテハ右條約締約國ニ對シ我方留保ニ何等異議アラバ客年末日迄ニ聯盟事務局ニ通告センコトヲ求メタルモノナルコト御承知ノ通りナルヲ以テ現在未回答ノ國ハ右留保ニ異議無キモノト認メ批准ノ國內手續ヲ進メ度キ意向ナリ

依テ右ニ關シ此際聯盟事務局ヲシテ帝國政府ハ未回答國ハ留保ニ異議ナキモノト認ムル旨ノ回狀ヲ締約諸國ニ發送セシメ度キニ付右申入れヲ結果回電アリ度シ尙爲念貴信第ハ七六號以後回答濟ノ國名回電アリ度ク他方未回答國ニシテ我方使臣ノ駐在國政府ニ對シテハ外交經路ニ依リ回答ヲ促進セシムルコト、致スベシ

8 昭和10年1月11日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

(C' L 11-1934) ヲ引用シ左ノ通り續ク

I have the honour to inform you, under instructions from my Government, that as the period during which the various Governments were invited to file any objection as to the reservation proposed by Japan has expired, the Japanese Government feel that they may act as regards ratifying the Convention on the assumption that those Governments which have not replied by the contemplated date of December 31, 1934, have no objection to the said reservation, and at the same time I wish to request you to be good enough to notify the High Contracting Parties to the said Convention to the above effect.

9 昭和10年1月14日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

宮島阿片中央委員会委員の後任推薦につき事務局係官に申入れについて

付記 昭和九年十二月十九日發在ジュネーブ横山國際

聯盟事務局よりの麻薬製造制限条約我が方留保に対する未回答國宛回章について

別電 一月十一日發在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛第一一號

右回章

ジュネーブ 1月11日後発
本省 1月12日前着

第一〇號

往電第八號前段ニ關シ(麻薬條約我方留保ニ關スル件)阿片、法律兩部係官ト協議ノ結果本官ヨリ事務總長ニ對シ別電第一一號ノ通り書面ヲ送り事務局ヨリ右書面寫ヲ締約諸國ニ廻送セシムルコトニ打合ヲ了セリ
右ニテ差支ナキヤ御回電ヲ請フ

(別電)

ジュネーブ 1月11日後発
本省 1月12日前着

第一一號

一九三三年十二月十一日附事務總長宛書翰及事務局回章

會議事務局長代理兼総領事より広田外務大臣宛
電報第二六八号

聯盟アヘン中央委員会書記長による宮島同委員の留任要請について

ジュネーブ 1月14日後発
本省 1月15日前着

第一四號

客年貴電第一六一號ニ關シ(宮島博士阿片中央委員会委員辭任ノ件)阿片部長ノ歸任ヲ待タス宛ニ角解決ヲ促進スル爲十四日「テオドリ」ニ面會シ宮島博士ノ辭表モ到着セル故右傳達旁其ノ後任トシテ草間氏ヲ推薦ス可ク愈正式手續ヲ採ルニ決セリト告ケタルニ同人ハ今度ノ理事會開會後伊國理事ヨリ突然同委員會伊國委員更迭ノ問題ヲ持出し事務總長及關係主要國理事等ト種々内交渉ノ結果遂ニ近々理事會ノ承認ヲ得可キ見込立ツニ至レリ右ハ正ニ日本ノ爲ニ最有利ナル先例ヲ作ルコトナル故日本側ノ申入ハ右確定後ニセラルル方時宜ニ適スヘシト云ヘルニ付本官ハ同一性質ノ問題ナル故兩者同時ニ解決スル様至急取計ハレ度シト述ヘタルニ同人ハ實ハ可成リノ困難ヲ排シテ伊太利ノ分丈ケ

漸ク解決ニ近付キタル譯ナレハ今直ニ日本ノ分ヲモ持出シテ事態ヲ紛糾セシムルハ貴我双方ノ爲ニ不利ナル故是非共茲數日間待タレ度ク其ノ上ニテ自分ハ出來得ル限り速ニ御希望通り解決方ニ盡力スヘシト約束セリ
右一應報告ス
關係電報ト共ニ佛、伊へ暗送セリ

(付 記)

ジュネーブ 昭和9年12月19日後発
本 省 昭和9年12月20日前着

第二六八號

貴電⁽¹⁾第一五五號ニ關シ

阿片部長來月二十日迄休暇不在ニ付中央委員會書記長「テオドリ」ヲ訪問シ宮島博士辭任ノ件ニ付下相談シ度シト切リ出シタルニ「テ」ハ非常ニ當惑セル面持ニテ今博士ニ辭任サレテハ事態益々紛糾スル故是非共引留メテ貫ヒ度シトテ左ノ通内話セリ

(一)實ハ議長「ライヤル」及副議長「ガラブレジー」ノ兩人共此ノ夏以來重病ニテ再起ノ見込無ク又獨逸委員「アンセ

ルミノ」モ同國ノ聯盟復歸迄ハ出席不能ナル爲前回會合ノ際代理者選任ノ件カ問題トナリシモ印度委員ノ反對アリテ次回會合迄之カ解決ヲ保留シアリ現ニ數日前事務總長ヨリ目下研究中ノ聯盟各種委員會構成ノ件ト關聯シ右ニ付質問ヲ受ケタル程ニテ自分ノ頗ル焦慮シ居ル處ナルニ此ノ際若シ宮島博士辭任セハ次回會合ハ定足數ヲ缺クノ虞モアリ委員會トシテ何等ノ措置ヲモ執リ得サルニ至ル無キヲ保セス代理制度スラ成立セハ博士自身出席不可能ニテモ代理者トシテ他ノ日本人カ出席出來ル故不便無キ筈ナルヘシ故ニ今一度是非共博士ニ出席ヲ求メ先ツ本件ノ解決ヲ計ルコトト致度シ

(二)假ニ博士ノ願意ヲ得ルコト不可能トスルモ來月ノ理事會ニ對シ其ノ後任者ヲ推薦スルハ頗ル冒險的ナリ本件ニ付テハ先ツ客年十月ノ理事會ニ於テ現委員全部ノ再選ノ際英國理事ノ爲シタル聲明(第七七回理事會調書一頁、客年聯盟官報十二月號一六三四頁)ヲモ考慮スルノ要アリ或ハ倫敦ニテ英外相ノ諒解ヲ取付ケ置カルルノ要アルヤモ測ラレス又先年「フィンランド」國委員ノ離任後「ユーゴスラヴ」委員ノ任命ヲ見タル事例モ有り實際上他ノ諸國ヨリ立候補

など査報方訓令

本 省 1月15日後1時発

第六號

任期滿了前死亡又ハ辭任セル常設國際司法裁判所裁判官ノ後任ハ同一國籍ノ裁判官ニ依リ補充セラルコト從來ノ例ナル處我方トシテハ安達裁判官ノ後任ハ是非共日本人裁判官ヲ以テ補充シ度キ希望ナルニ付貴官ハ右御含ミニテ形勢ヲ注視セラレ後任者ニ關スル各國ノ態度等ニ付當方ノ參考トナルベキ情報御聞込ノ際ハ隨時電報アリタシ
本大臣ノ訓令トシテ英佛和蘭ニ轉電アリタシ

11 昭和10年1月25日

在仏國佐藤(尚武)大使より
広田外務大臣宛(電報)

連盟脱退確定が間近に迫る状況において一般軍

縮会議からの我が方脱退の是非につき訓

パ リ 1月25日後発

本 省 1月26日前着

第三三號(極秘)

聯盟脱退後聯盟トノ協力問題ニ關スル我方方針ニ關シテハ

スルモノ無キヲ保セス且脱退後ニ於ケル日本ノ協力ニ關スル根本問題ニモ觸ルルニ至ラハ議論ハ可ナリ紛糾スヘク不用意ニ本件ヲ提出セハ不測ノ困難ニ逢着スルノ惧アルヘシ(三)然ルニ次回理事會ハ主トシテ「ザール」問題審議ノ爲一月十一日開催ノ豫定ニテ他ノ諸問題研究ノ餘地ナカルヘク又事務局トシテモ年末年始ノ休暇ヲ控ヘ博士ノ後任者銓衡推薦等ニ付充分準備ノ暇ナキコトヲモ考慮セハ此ノ際本問題ノ提起ハ之ヲ見合セ兎ニ角宮島博士ノ留任ヲ懇請セララルコトカ双方ノ爲ニ最利益ト認メラル
本問題ノ解決ニ付テハ直接ノ責任者タル「テオドリ」ノ右意見ヲ無視シ得サルコト勿論ナルニ付宮島博士ニ對シ留任方御勸説相成度同博士ノ願意ヲ見ルコト到底不可能ナルニ於テハ切メテ今一度來年三月ノ會合ニ出席ヲ請ヒ前記代理問題ノ解決ヲ計リ然ル後徐ロニ將來ノ對策ヲ講スルコトト致度ニ付同博士ノ辭表提出ハ當分ニテ差控ヘシメラレ度シ

10 昭和10年1月15日

広田外務大臣より
在ジュネーブ横山國際會議事務局長代
理兼総領事宛(電報)

安達判事の後任を日本人としたく各国の動向

壽府總領事宛貴電第八號ニ依リ詳細承知セル處一般軍縮會議ニ殘留スルヤ否ヤノ問題ハ貴電中ニ明示無ク或ハ脫退通告當時軍縮會議ニハ依然參加ヲ繼續スヘキ旨會議々長ニ表明セラレタルコトニモアリ脫退完了後モ右態度持續セラルヘキヤニ拜察セラルルモ脫退通告後既ニ二年ヲ經一般軍縮問題ニ對スル帝國政府ノ御方針ニモ可成リ變化ヲ來シ事實上本問題ヲ以テ當分歐洲ニ限ラルルモノトシ傍觀的態度ヲ執ラレ軍縮全權並ニ隨員悉ク引揚ヲ了セルコトニモアリ且又其ノ中幹部會再開ノコトアリトシ主トシテ安全保障問題討議セラルル場合帝國政府ハ常ニ反對ノ態度ニ出テサルヲ得マシク（武器製造取引問題關係米國提案ニ於テモ監督問題ニ付テハ前同斷）寧口脫退完了ト共ニ自然的ニ軍縮會議ヨリ手ヲ引クコト得策カト存セラル（二年前參加繼續ニ關スル我方意思表示ニ對シテハ如何様ニモ説明ヲ附シ辻褄ヲ合セ得ヘシ）尤モ横山總領事ニ仄聞スル所ニ依レハ軍縮會議事務局側ニ於テハ日本ノ參加打切ハ全然考ヘタルコト無ク軍備ヲ有スル凡テノ國ヲ網羅スヘキ會議ノ性質上聯盟ヨリノ脫退如何ニ拘ラス日本ハ當然會議ニ繼續參加スヘキモノト思惟シ居レリトノ事ニテ此ノ際會議脫退ハ世論ニ失望

共和黨九）反對三十六（民主黨二十共和黨十四進步黨一農勞黨一）ニテ所要數タル三分ノ二ノ得票ニ達セス（七票不足）遂ニ否決セラレタリ投票間際ニ至リ形勢樂觀ヲ許ササルコト看取セラルルヤ政府側及上院贊成派ニ於テハ飽迄本案ノ通過ヲ期シ大統領及國務長官ニ於テ議員ノ説得ニ努メララルル外最後ニ至リ曩ニ外交委員會ニ於テ否決セラレタル「ジョンソン」留保案（國際紛爭ヲ右裁判所ニ附託スル場合ニハ米國ト當該國トノ間ニ於ケル一般的又ハ特別ノ條約ヲ以テスル用意ニ依ルヲ要スト爲スモノニシテ一九二六年ノ決議中ニモ包含セラレ居ルモノナリ）ヲ上院議員「トーマス」ヲシテ新ニ提案セシムル等留保ノ點ニ付テモ讓歩ヲ示スニ至リ右「トーマス」案ハ結局否決セラレタルモ最早右ニ依リ加入問題ニ關スル議員ノ去就ヲ變更スルコト能ハス遂ニ前記ノ如キ敗北ヲ來シタル次第ナルカ右敗北特ニ反對票數ノ多カリシコトハ一般ニ豫想外トセラレ現政府ニトリテハ前議會ニ於ケル退役軍人恩給問題以來ノ大敗北ト看做サレ居ル處其ノ原因トシテハ（イ）歐洲政情ノ不安定ト戰債否認ニ對スル反感及右ニ伴ヒ歐洲政局不加入ノ傳統的政策ノ強調セラレタルコト（ロ）「ジョンソン」一派ノ戰術ノ巧妙

ヲ與ヘ會議ノ將來ニ打撃ヲ與フルモノナリトノ我ニ不利益ナル宣傳ノ機會ヲ作ルニ至ルヘシトノ見方モアリ就テハ是等ノ點篤ト御考慮ノ上帝國政府ノ御方針ニ付何分ノ御訓令ヲ仰キタシ而シテ政府ニ於テ以前通り不即不離ノ態度ヲ繼續シテ會議殘留ニ御決定ノ場合本使ニ於テ依然全權ノ資格ヲ持續スヘキヤ否ヤノ問題ニ付テハ更ニ卑見上申ノコトト致シ度シ

壽府ニ轉電シ（土ヲ除ク）在歐各大使ニ暗送セリ

12 昭和10年1月30日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛（電報）

米國の常設國際司法裁判所加入案を上院が否決について

ワシントン 1月30日後発
本 省 1月31日前着

第四三號

往電第三八號ニ關シ（國際司法裁判所加入問題）

上院ニ於ケル國際司法裁判所加入案ニ關スル最終表決ハ一月二十九日夕刻行ハレタルカ贊成五十二（内民主黨四十三

ナリシコトハ「ハースト」系新聞ノ反對宣傳（本會議ノ討議永引キ其ノ間各議員ニ對シ國內各方面ヨリノ反對電報蟬集セルコト等ニ基クモノト認メラレ居レリ今回ノ敗北ニ依リ米國ノ裁判所加入ハ當分見込ナキニ至レルモノト云フヲ得ヘシ

海牙、壽府ニ轉電シ紐育ヘ郵送セリ

13 昭和10年1月31日

在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛（電報）

常設國際司法裁判所加入案否決に關する米國各紙論調

ワシントン 1月31日後発
本 省 2月1日前着

第四七號

往電第四三號ニ關シ

「國際司法裁判所加入案否決ニ關スル三十一日ノ新聞論調ヲ概括スルニ「ハースト」系新聞ヲ除キ多クノ新聞力其ノ通過ヲ支持シ來レル關係上何レモ右否決ヲ遺憾トシ右ニ依リ米國政府ノ國際協調政策ハ重大ナル蹉跌ニ遭遇シ

タリトナスト共ニ該問題カ其ノ「メリツト」ニ依リ取扱ハレス「ヒステリカル」ノ宣傳及「デマゴグエリー」ノ左右スル處トナリタルヲ痛嘆スル點ニ於テ一致シ居レリ紐育「タイムス」、「ヘラルド、トリビューン」及華府「ポスト」ハ擧テ裁判所加入カ米國ヲシテ歐洲ノ紛争ニ介入セシムルモノナリトノ所論ノ偏狹ナルヲ難シタルカ就中「タイムス」、「トリビューン」ハ裁判所加入ニ依リ問題ヲ外交手段ニ據ラスシテ司法的ニ解決スルコトコソ寧ロ歐洲紛争ノ圏外ニ立ツト共ニ聯盟ニモ接近セサル方法ナリト論シ又「ポスト」ハ昨年来米國力國際労働機關ニ加入セルコトヲ引用シ労働機關ニ加入スル方寧ロ其ノ國策ニ及ホス影響大ナリトナシタル上右加入案否決ノ影響トシテ從來政府ノ計畫セル各種平和促進案ニ對スル熱意モ之カ爲冷却セシメラレ海洋自由政策及「コンサルチーブ、パクト」等ニ關スル提案モ恐ラク放棄又ハ根本的ニ變更セラルヘシト論シ居レリ

三、裁判所加入案否決ニ對スル一般新聞紙上ノ通りナル處三十一日「イブニング、スター」所載「ダビッド、ローレンス」ハ右ニ關シ稍々異レル觀察ヲナシ居レルカ右ニ

タル委任統治部ヨリノ伺ニ對シ事務總長ハ委任統治條項ハ規約第二十二條ノ規定ニ依リ成立シタルモノナルモ夫レ自体獨立ノ國際約定ノ性質ヲ有スルモノナレハ其ノ條項力遵守セラルル限り受任國ノ地位ニハ何等變更無キモノト認ムル旨並ニ外部ニ對スル説明振等ニ關シテハ法律部ト協議ノ上「フオルミユラ」ヲ決定スヘキ旨ヲ指令シタル趣ナリ右内密聞込ノ儘米ヘ轉電シ、在歐各大使ヘ暗送セリ

15 昭和10年2月7日 広田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

連盟からの脱退確定を期に一般軍縮會議からも脱退することは大局上問題が多いので今後も傍觀者的立場を保持しつつ會議にとどまらべき旨訓令

本省 2月7日発

第二二號(極秘)
貴電第三三號ニ關シ

御來示ノ如ク一般軍縮會議討議事項中ニハ我方ニ於テ絶對ニ受諾シ難ク爲ニ我方ヲ困難ナル立場ニ陥ルル虞アル問題

依レハ加入案否決ヲ以テ鞏固ナル「ナシヨナリズム」ノ表現ナリトナシ外交的ニ觀レハ米國力歐洲諸國ニ對シ最早國際約束ノ締結ニ「インテレスト」ヲ有セサルコトヲ示シ海軍問題ニ付テモ英國トノ協調ヲ求メス強大ナル海軍力ト國防政策ノ強大化ニ賴ラントスルモノナルヲ示スモノナリトナセリ
海牙ニ轉電シ、海牙ヲシテ壽府ニ轉電セシム
紐育ニ郵送セリ

14 昭和10年2月2日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代
理兼總領事より
広田外務大臣宛(電報)

連盟脱退後の南洋群島委任統治に關シ連盟事務總長が脱退は受任国の地位に影響しない旨
のフォーミユラ決定方指令について

ジュネーブ 2月2日後発
本省 2月3日前着

第二七號

日本委任統治地域ノ歸趨ニ關シテハ今猶往々當地新聞記者間ニ於テ問題トナリ居ルニ顧ミ事務局情報部ハ相談ヲ受ケ

多數アリ聯盟脱退通告ノ機會ニ軍縮會議ヲモ脱退シタリトセハ此等ノ問題ヲ避ケ得タルカ如キモ當時帝國政府ニ於テハ諸般ノ關係ヲ考究シタル結果會議殘留ニ決定セル次第ニシテ其ノ後獨逸ノ脱退ヲ見ルニ至リ今や歐洲主要關係國間ニ於テ其ノ復歸ヲ促シ會議ヲ曲リナリニモ再開セシメムト折角努力シツツアル今日我ニ於テ軍ニ聯盟脱退完成ヲ口實トシテ會議ヨリ脱退スルコトハ大局上(横山局長代理發來電第二六號ニノ點及來ルヘキ海軍軍縮會議其他聯盟トノ協力問題例ヘハ司法裁判所裁判官後任選舉等ニ對スル影響ハ別トシテ)時期ニ非サルヘシ他方會議ノ前途ヲ推測スルニ假令獨逸ノ復歸ヲ見ルトスルモ會議ハ尙幾多ノ曲折ヲ經ヘク會議力専ラ歐洲問題ノ先決ヲ必要トスル現狀ニ鑑ミ從來通能ヲ限リ傍觀的態度ヲ持續スルコトト致度キ方針ナリ
壽府ニ轉電シ在歐各大使ニ暗送アリ度シ

16 昭和10年2月8日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代
理兼總領事より
広田外務大臣宛(電報)

安達判事の後任問題につき連盟事務總長との
会談について

第三一號

ジュネーブ 2月8日後発
本 省 2月9日前着

貴電第六號ニ關シ（安達裁判官後任問題）

日本側ハ杉村大使推薦ニ決セリトノ聯合報道記事六日朝刊諸新聞ニ掲載サレタル爲往電第三〇號會見ノ際談偶々本件ニ及ヘルヲ以テ本官ハ在職中ニ死亡セル安達大使ノ後任トシテハ矢張日本人ヲ選任スルカ當然ト思ハルル故ニ日本内地ニテ早くモ此ノ種ノ風評カ行ハルルハ不可思議ナラスト述ヘタルニ事務總長ハ此ノ問題ハ從來我々ノ話合ヒタル各種委員會ノ問題トハ到底比較ニナラヌ程厄介且六ヶ敷事件ナリト嗟嘆セルヲ以テ本官ヨリ總會選舉ノ關係上個人的ニ有力ナル人物テモ立候補シ本邦側候補者ヲ押シ除ケテ當選ノ見込アリト謂フ如キ意味ナリヤト反問セルニ總長ハ本件ニ付個人的聲望モ大切ニハ相違無キカ國際關係上ノ政治的考量モ亦頗ル重要ナル決定力ナルヘシ過般ノ理事會ハ單ニ次回通常總會ニテ後任者選舉ヲ行フヘシト決シタルニ止マリ何人モ此ノ實質問題ニ觸ルルコトヲ避ケタルカ當時一部人士中ニハ今度常任理事國トナリタル蘇聯邦ノ代表者ヲ入

レネハナルマイト内話セル者モアリタリ依テ本官ハ成程事益々面倒ナルカ斯克テハ日本ハ海牙法廷トモ絶縁スルニ至ルヤモ知レス本件ニ付テハ後日改メテ御相談スルコトアリ得ヘシト告ケ置キタリ

貴電第六號ト共ニ參考ノ爲伊、白、獨、蘇、土へ暗送セリ英、佛、蘭へ暗送セリ

17 昭和10年2月13日 広田外務大臣より
在英國松平大使宛（電報）

麻薬製造制限条約我が方留保に対する解釈が反対を意味するものでない旨確認方訓令

本 省 2月13日前4時15分発

第二九號

壽府宛往電第一七號ニ關シ

帝國留保ニ對スル英佛等ノ事務總長宛回答ハ壽府ヨリ御入手ノ事ト存ズルモ（右回答中ノ解釋ニ付樞府側トモ内々折衝ヲ行ヘル處樞府側ニハ帝國政府ガ麻薬關係諸委員會ノ委員任命參加ノ爲理事會ニ招請セラル、コトハ右諸國ノ解釋ニ依リ不確實ナルヲ免レズト爲スモノアリ）我方留保ノ

本 省 2月25日前6時10分発

第一七號

往電合第一二九號ニ關シ

前回選舉ノ際ノ經緯ニ鑑ミ裁判所書記「ハンマーシヨルド」ノ立候補モ懸念セラル、處果シテ同人ニ右意向アル模様ナルニ於テハ今回ハ安達裁判官補闕ノ爲ノ特別選舉ノコトニモアリ同人ニ對シ右往電ノ趣旨ヲ適宜説示シ同人ニ於テ今回ハ立候補ヲ思止ル様可然懇談ヲ遂ケラレ結果回電アリ度シ

尙各裁判官殊ニ巴里講和會議以來長岡博士ト昵懇ノ間柄ナル「セシル・ハースト」及「フロマヂオ」、「アンヂロツチ」ニ對シテモ夫々冒頭往電ノ趣旨ニ依リ其ノ間接的援助ヲ依頼セラレ度シ

19 昭和10年2月25日 広田外務大臣より
在英國松平大使宛（電報）

安達判事の後任に長岡博士推薦につき任国裁判官団に申入れ方訓令

付 記 二月九日起草高裁案

主旨ハ阿片常設中央委員會阿片諮問委員會及保健委員會ノ委員任命ニ關スル理事會ノ議ニ參與シ得ル地位ヲ保持セントスルモノニシテ（實際理事會ニ出席スルヤ否ヤハ別問題ナルモ實際問題トシテハ阿片條約第十九條第四項獨米同様に之等委員會ノ委員任命參加ノ爲招請セラル、コトヲ期待ス）英佛等ノ解釋ガ我方ノ主旨ニ反對スルモノナリトハ解セラレザルモ英佛側ニ於テ我方ノ主旨ヲ諒解シ理事會ノ議ニ參與方賛成シ居レルモノナリヤ確メ置キ度キニ付貴官ハ壽府宛電報ニ記載ノ當方ノ解釋ニ前記ノ趣旨ヲ付加セラレ右ニ關スル責任國政府ノ意向ヲ御確メノ上至急回電アリ度シ

（尙我方留保ノ趣旨等ニ付テハ委細客年條一機密合第三七五號参照アリ度シ）

本大臣ノ訓令トシテ佛ニ轉電アリタシ

18 昭和10年2月25日 広田外務大臣より
在オランダ武富公使宛（電報）

安達判事の後任に関しハマーシヨルドの立候補断念申入れ方訓令

「常設國際司法裁判所安達裁判官後任候補者ノ推薦ニ關スル件」

本省 2月25日前7時発

合第一二九號

廿二日附ヲ以テ聯盟事務總長ヨリ故安達國際司法裁判所裁判官後任候補者ノ指名方我方仲裁裁判所裁判官ヘ委嘱シ來レル處本邦仲裁裁判官團ニ於テハ後任候補者トシテ長岡春^(ヘルカス)博士ヲ推薦スルコトニ決定シタルニ付貴官ハ成ル可ク速ニ貴任國(兼任國アラバ之ヲ含ム)ノ國別仲裁裁判官團及貴任國政府ニ對シ適宜可然連絡ヲ取ラレ成ル可ク貴任國ノ裁判官團ヲシテ長岡博士ヲ候補者トシテ推薦セシムル様精々御盡力ノ上結果回電アリ度シ

尙右申出ノ際ハ長岡博士ノ閱歷聲望等ニ付充分説明ノ要アルコト勿論ナルモ一般的理由トシテハ裁判所規程第九條後段ノ「總體トシテ重ナル文明ノ形態及世界ノ主タル法律ノ系統ヲ代表スヘキ」云々ノ趣旨及死亡、又ハ辭任シタル裁判官ノ後任ハ必ラズ同裁判官ト同一國籍ノ後任者ニ依リ補充セラレ居ルコト從來ノ例ナルコトヲ説示セラレ度尙帝國政府トシテハ聯盟ヲ脱退シタルモ裁判所トハ世界最高ノ平

和機關トシテ從來同様協力スル方針ナルヲ以テ我方トシテハ今回ノ選舉ノ結果ヲ極メテ重要視シ居ル次第ニシテ萬一本邦候補者ノ選任ヲ見ザルガ如キコトアラバ輿論ノ手前裁判所トノ關係ノ繼續ハ困難トナルベキヲ虞ル政府トシテハ固ヨリカカル不幸ナル事態ノ招來セラレザラムコトヲ望ムモノナル旨適宜説明セラレ度シ

(轉電先)

本電本省ヨリ直接打電ノ分

英、佛、米、伯、支、暹羅

佛ヘハ

壤ヲ除ク大公使及壽府ヘ至急情報通り轉電アリ度シ

土ヨリ波斯ヘ、瑞典ヨリ芬蘭ヘ

轉電アリ度シ

米ヘハ

墨、哥、玖ヘ轉電アリ度シ

伯ヘハ

亜、秘、智ヘ轉電アリ度シ

ト附記ノ事

(付記)

高裁案

昭和十年二月九日起草

昭和十年二月 日決裁

常設國際司法裁判所安達裁判官後任候補者ノ推薦ニ關スル件

故安達常設國際司法裁判所裁判官ノ逝去ニ依リ生シタル空闕補充ノ爲ノ補缺選舉ハ本年九月ノ國際聯盟總會及理事會ニ於テ同裁判所規程第十四條ノ規定ニ基キ行ハルコトトナリ居リ國際聯盟事務總長ハ右規程第五條第一項ノ規定ニ從ヒ選舉ノ日ヨリ少クトモ三ヶ月前即チ大体本年六月以前ニ右裁判所加盟各國ニ於ケル海牙常設仲裁々判所裁判官團(我方裁判官團ハ富井顧問官、織田、山田兩博士)ニ後任裁判官候補者ノ指名ヲ依嘱シ來ルヘク各國裁判官團ハ候補者二名(自國人ハ内一名ニ限ル)ヲ指名シ得ル次第ナリ然ル處辭任又ハ死去シタル裁判官ノ後任ハ同裁判官ト同一國籍人ニ依リ補充セララルコト從來ノ例ナルモ帝國ハ曩ニ國際聯盟脱退ノ通告ヲ發シ近ク非聯盟國トナルベキニモ鑑ミ今回ノ補缺選舉ハ必スシモ右先例ノミヲ以テ律スルコトヲ得サルヘク從テ他ノ聯盟國人ヲ排シテ本邦人候補者ヲ當選

セシメンガ爲ニハ早ニ及ンテ適當ナル候補者ヲ決定シ諸般ノ準備ニ萬遺憾ナキヲ期スルコト必要ナリト認メラル就テハ既ニ我國別裁判官團ニ於テハ本邦人候補者トシテ法学博士長岡春一氏ヲ推薦スルコトニ内議纏リタルコトニモアリ裁判所規程第六條ニ基キ且先例ニモ則リ近日中ニ候補者推薦ノ内協議會ヲ開催スルコト適切ナリト思考セララルニ付外務大臣ニ於テ富井、織田、山田ノ三仲裁々判官ノ依賴ニ基キ三月初旬左記人士ヲ招請シ懇談會ヲ催スコトト致度シ右仰高裁

(招請文案別紙ノ通り)

記

和仁大審院長

富井帝國學士院第一部長

末弘東京帝國大學法學部長

山田京都帝國大學法學部長

石原東北帝國大學法文學部長

豐田九州帝國大學法文學部長

船田京城帝國大學法文學部長

小泉慶應義塾大學總長

田中早稻田大學總長

鵜澤明治大學總長

原中央大學學長

山岡日本大學總長

阪谷專修大學總長

小山法政大學總長

和田同志社大學學長事務取扱

仁保關西大學學長

佐々木立命館大學學長

立作太郎

山川端夫

(別紙)

拜啓陳者故安達常設國際司法裁判所裁判官ノ逝去ニ依リ生シタル空闕補充ノ爲ノ補缺選舉ハ本年九月ノ國際聯盟總會及理事會ニ於テ同裁判所規程第十四條ノ規定ニ從ヒ行ハルヘキ筈ニ有之又國際聯盟事務總長ハ同裁判所規程第五條第一項ニ基キ選舉ノ日ヨリ少クトモ三ヶ月前裁判所加盟國ノ常設裁判所裁判官團ニ對シ裁判官候補者ノ推薦ヲ依囑致ス筈ニ有之候處同裁判所規程第六條ノ規定ニ依レハ各國ノ常

設仲裁裁判所裁判官團ハ右推薦ヲ爲スニ先立チ自國ノ最高

裁判所、法科大學、法學ノ研究ニ從事スル學士院等ノ意見

ヲ徵スルコトヲ懲慫セラレ居リ候間常設仲裁裁判官男爵富

井政章、織田萬、山田三良ノ三氏ノ主權ノ下ニ大審院、各

法科大學、及帝國學士院第一部ノ代表者ニ列席ヲ請ヒ本邦

側ノ仲裁裁判所裁判官團ヨリ推薦スヘキ候補者ニ關シ豫メ

內協議會ヲ催スコトト相成右ニ付準備方御依頼ノ次第有之

候ニ付來ル三月五日(火曜日)午後十二時半ヨリ外務大臣

官邸ニ於テ右內協議會開催可致候間萬障御繰合セ御出席被

下度萬一御出席相叶ハサル場合ニハ本件ニ關スル御意見當

日迄ニ當方迄御申越候ハ幸甚ノ至ニ御座候右得貴意候

敬具

尙同裁判所規程第五條第二項ニ依リ本邦側裁判官團ヨリ

推薦スヘキ裁判官候補者ニ付富井、織田、山田ノ諸裁判

官ノ所見ヲ御參考迄ニ申上クレハ本邦人候補者トシテ法

學博士長岡春一氏ヲ推薦致度趣ニ有之候

昭和十年二月 日

外務大臣 廣田 弘毅

20 昭和10年3月2日

広田外務大臣より
在中国有吉(明)公使宛(電報)

連盟脱退確定に鑑み中国の常任理事要求には
無関心を持すべき旨訓令

本省 3月2日後3時発

第四六號

貴電第一九三號ニ關シ

客年聯盟總會ニ於テ非常任理事再選資格要求ヲ否決セラレタル支那ガ近キ將來ニ於テ常任理事ニ指名セラルヘシトハ豫想シ難キモ帝國ハ近ク聯盟ヲ脱退スヘキコトニモアリ本件ニ付テハ全然無關心ノ態度ヲ持スヘキコト貴見ノ通りナリ

北平、南京、廣東、漢口、天津へ暗送アリ度シ

21 昭和10年3月15日

広田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

麻薬製造制限条約の連盟脱退確定前に留保宣
言通告する予定上仏国政府の意向至急確認方

訓令

第四九號(至急)

壽府發本大臣宛電報第四二號ニ關シ

佛國側回答遅延ノ爲遅クトモ十五日樞府審査委員會ニ、廿

日定例本會議ニ附議スル當方ノ豫定ハ不可能トナリ殘ル處

ハ十九日審査委員會廿四日臨時本會議ヲ要求シ脱退前ニ留

保宣言ヲ通告スルノ外ナシ就テハ佛政府ニ對シ往電第四七

號申進ノ點ニ付即時確答ヲ求メラレ若シ反對留保ナルニ於

テハ帝國政府ガ條約ノ批准ヲ爲シ得ザルニ至ルコトヲ申入

レラレ結果十七日中當方ニ接到スル様同電アリ度シ

英及壽府ニ轉電アリタシ

22 昭和10年3月16日

在英国松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

麻薬製造制限条約の日本留保に対する英国政
府の解釈は反対留保にあらずとの外務省極東
部長の談話について

ロンドン 3月16日後発
本省 3月17日前着

第九七號(至急)

往電第六八號ニ關シ

十六日求メニ依リ宮崎外務省極東部長ヲ往訪シタル處同部長ハ我方質問事項ニ對シ回答トシテ左記要旨ノ本使宛書翰ヲ手交セリ

「我方質問ノ第一點(壽府宛貴電第一七號(-))ニ對シ「右ハ將ニ英國政府ノ意見ヲ表明シ居ルモノナルカ英國政府ノ陳述ハ如何ナル意味ニ於テモ反對留保ト解セラルヘキニ非サルコトヲ明カニセントス」

「第二點(同上壽府宛貴電(-))ニ對シ「英國政府陳述ノ意味ハ帝國政府ノ留保ハ夫レ丈ニテハ本件委員會委員長任命ニ際シ帝國代表者カ理事會ノ一員トシテ臨席スルヲ可能ナラシムル法律の效力ヲ有スルモノトハ思考セスト云フニ在リ」依テ宮崎ハ第二點ニ關シ我方留保ノ趣旨ハ本件委員會委員ノ任命ニ關スル理事會ノ決議ニ參與シ得ル權威ヲ保持セントスルモノナルコト我方カ本件任命ニ參加セリトテ之カ爲理事會ノ構成ニ變化ヲ生スルモノニ非スト解スヘキコトヲ述ヘタルニ對シ「オールド」部長ハ右ノ點ニ付上述ノ通り申述ヘルノ外ナシ尤モ英國側トシテハ日本代表者ノ參加

第八五號

往電第八三號ニ關シ

十六日午後六時半漸ク佛側ノ回答確定セル趣ニ依リ本使「マッシグリー」ニ面會「マ」ヨリ要點別電第八六號ノ如キ「ノート」ヲ手交スルト共ニ法律問題トシテハ右ノ如ク答フル外ナキモ事實問題トシテハ日本ノ協力ハ切ニ希望スル處ナルニ依リ事前ニ非公式ニ協定ヲ遂クルナリ或ハ他ノ方法ニ依ルナリ具體的必要ノ起キタル際ニ適當ノ方法ヲ講シ阿片條約ニ付テハ米獨ニ準シ取扱フヘシ英國トモ協議シ同國モ同様ノ回答ヲナスコトト信スト述ヘタリ

右佛側回答ハ御期待ニ副ハサルヤヲ惧ルルモ時日ノ餘裕モ無ク詮スル所之以上ヲ求ムルコト困難ト存セラル

本電別電ト共ニ英ニ轉電シ壽府ニ暗送セリ

(別電)

パリ 3月17日前発
本省 3月17日後着

第八六號

Le Ministère des Affaires Etrangères

方ニ付日本ト聯盟側トノ間ニ何等カノ「ブラクチカル、メソッド」ヲ見出し得ハ好都合ト考ヘルモノニテ右ニ對シテハ敢テ反對セントスルモノニ非ス何レニセヨ英國政府ノ解釋カ日本ノ留保ニ對スル反對留保ノ趣旨ニ非サルハ先般既ニ申述ヘタル通ナリト答ヘタル趣ナリ關係書郵送ス

佛、壽府へ郵送セリ

23

昭和10年3月17日 在仏国佐藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

麻薬製造制限条約に関する我が方留保に対する
仏国政府回答について

別電 三月十七日発在仏国佐藤大使より広田外務大臣

宛第八六号

右仏国政府回答

付記 作成日、作成局課不明

同回答訳文

パリ 3月17日前発
本省 3月17日後着

a l'honneur de faire connaître à l'Ambassade Impériale du Japon que la communication précitée du Gouvernement Français avait simplement pour but de marquer que dans l'esprit du Gouvernement de la République la réserve japonaise envisagée ne peut comporter des conséquences juridiques susceptibles de conférer à un représentant japonais le droit de siéger au Conseil de la Société des Nations lorsque celui-ci procède à l'examen des questions relatives aux commissions de l'opium. De l'avis du Gouvernement Français il est en effet impossible de limiter la liberté d'appréciation du Conseil qui a toute latitude pour prendre telle mesure qu'il jugera la mieux appropriée à la circonstance et qui voudra certainement préoccuper de la situation à laquelle se réfère la réserve du Gouvernement du Japon.

(付記)

(極秘) 同上邦譯文

佛蘭西政府ノ前記通牒ハ同政府ノ解釋ニ從ヘバ本件日本ノ留保ハ聯盟理事會ガ阿片ノ諸委員會ニ關スル諸問題ヲ討議セントスルトキ日本代表者ニ理事會出席スル權利ヲ與フルガ如キ法律上ノ結果ヲ包含セザル旨ヲ單ニ記載セルニ外ナラザリシコトヲ佛蘭西外務省ハ日本帝國大使館ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候佛蘭西政府ノ見解ニ從ヘバ理事會ガ情勢ニ最モ適當ナリト思惟スル手段ヲ採ルノ自由ヲ有シ且必ズヤ日本政府ノ留保ニ云フ狀態ヲ考慮スベキ理事會ノ裁量ノ自由ヲ制限セントスルハ事實不可能ナルモノニ有之候

24 昭和10年3月22日 広田外務大臣より
岡田(啓介)内閣総理大臣宛

麻薬製造制限条約の批准奏請

條一機密第一四二號

昭和十年三月二十二日

外務大臣 廣田 弘毅

内閣総理大臣 岡田 啓介殿

麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約御批准奏

請ノ件

昭和七年十二月九日附貴内閣総理大臣宛内田外務大臣發條一機密第五一四號ヲ以テ麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約ノ御批准奏請致置候處其ノ後帝國ノ聯盟脫退通告ノ結果同條約御批准ニ先チ帝國政府ニ於テ別紙案文ノ通ノ留保宣言ヲ爲スノ必要生ジタルニ付上奏案及御批准文案別紙ノ通訂正致度候條可然御取計相成度此段申進候也
追テ帝國政府宣言及同邦譯文各四部添付致置候

(上奏案)

昭和六年七月十三日「ジュネーヴ」ニ於テ帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約ヲ右ニ關シテ昭和十年三月二十五日帝國政府ノ爲シタル宣言ヲ存シテ御批准相成様仕度別紙御批准文案及帝國政府宣言相添ヘ此段謹テ奏ス

昭和十年三月二十五日

外務大臣 廣田 弘毅

(御批准文案)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)

此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕昭和六年七月十三日「ジュネーヴ」ニ於テ帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ署名シ且昭和十年三月二十五日附ヲ以テ帝國政府ガ宣言スル所アリタル麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ右帝國政府ノ宣言ヲ存シテ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百九十年昭和 年 月 日

ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈴セシム

御名國璽

外務大臣副署

宣言

Declaration

The Japanese Government declare that, in view of the necessity of close co-operation between the High Contracting Parties in order to carry out most effectively the provisions of the Convention for Limiting the Manufacture and Regulating the Distribution of Narcotics Drugs, signed at Geneva

on July 13, 1931, they understand that the present position of Japan, regardless of whether she be a member of the League of Nations or not, is to be maintained in the matter of the composition of the organs and the appointment of the members thereof mentioned in the said Convention.

March 25th, 10 Showa(1935).

宣言

日本國政府ハ千九百三十一年七月十三日「ジュネーヴ」ニ於テ署名セラレタル麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約ヲ最有効ニ實施スルニハ各締約國ノ密接ナル協力ヲ必要トスルニ鑑ミ右條約ニ掲ゲラレタル諸委員會ノ構成ヲ定メ及其ノ委員ノ任命ヲ爲スニ當リテ日本國ノ現ニ有スル地位ハ日本國ガ聯盟國タルト否トヲ問ハズ維持セラルベキモノナリト了解スルコトヲ宣言ス

昭和十年三月廿五日

25 昭和10年3月23日
在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

婦人児童委員会および阿片諮問委員会への日
本招請につき阿片部長との会談について

ジュネーブ 3月23日後発
本省 3月23日後着

第四六號

二十二日阿片部長ノ求ニ應シ往訪セルニ

「四月初旬ノ臨時總會ニテ婦人児童及阿片ノ兩諮問委員會
ヘ日本招請ノ決議ヲ取付ケ協力ノ中斷ヲ避ケ度キ希望ナ
ルカ御承知ノ通事務局ニ於テ右提案ノ責任ヲ執リ得サル事
情アル故三月二十七日前後ニ貴官ヨリ事務總長ニ對シ「日
本ハ今回愈非聯盟國トナルモ人類ノ福祉ニ貢獻スヘキ諸事
業ニ付過去ニ於ケルト同様ノ方針ヲ保持スヘシ右爲念通報
ス」ト云フ如キ一種ノ挨拶狀ヲ寄セラルルヲ得ハ自分等ハ
之ヲ契機トシテ目的貫徹ニ努ムヘシ是非共政府ヘ稟請ヲ請
フ」ト懇談セルニ付本官ハ其ノ誠意ヲ多トスルモ右ハ我方
ヨリ協力ヲ提案セル如ク曲解セラルル處アリ内地輿論ノ關
係モアリ政府ノ同意ヲ得ルコト至難ト思ハルト答ヘ置キタ

ナリ居ルヲ the said Convention ト訂正方取計レタシ
英、佛ハ轉電アリタシ

27 昭和10年3月25日
在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事宛(電報)

麻薬条約に関する我が方留保宣言文を事務総
長に發送方訓令

本省 3月25日後5時25分発

第三〇號(大至急)

往電第二九號ニ關シ

宣言文末尾ニ March 25th, 10 Showa (1935) ト附加シタ
ル上事務總長宛貴官通告ノ冒頭ヲ左ノ如クシ發送セラレ發
送ノ上ハ其旨同電アリ度シ

Referring to my letter (A5001/4) dated January 23rd,
1935, and under instructions from my Government,
I have the honour to inform you that the Japanese
Government, on March 25th, 1935, made the
following declaration:

尙今次決定ノ經緯ハ外部ニハ述ベラレザル様致度シ

リ

26 昭和10年3月23日
在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事宛(電報)

麻薬製造制限条約の留保宣言を二十五日付で
行うにつき連盟事務総長に申入れ準備方訓令

本省 3月23日後6時発

第二九號(至急)

當方トシテハ麻薬條約ノ樞府通過后帝國政府ノ留保宣言ヲ
爲ス豫定ナリシ處佛國ノ回答遅延ノ爲聯盟脱退完成前ニ樞
府ノ本會議通過不可能トナリタルヲ以テ政府トシテハ其ノ
責任ニ於テ脱退前ニ宣言ヲ爲シ右宣言ヲ附シテ御批准ヲ仰
グコトニ決定シタルニ依リ貴官ハ帝國政府ハ二十五日附ヲ
以テ昭和八年往電第一〇號(全文引用ノコト)ノ宣言ヲ爲
シタル旨及右ノ次第ヲ各締約國ニ傳達アリ度旨同日附公文
ヲ以テ事務總長ニ申入方準備シ置カレタク當日又ハ二十六
日當方ヨリノ電報ヲ俟テ發送アリタシ尙事務局側同章ニ依
レバ limiting 及 regulating ノ頭文字ガ小文字ニナリ居ルニ
付右ヲ何レモ大文字トシ又末尾ニ this said Convention ト

英佛ニ暗送アリ度シ

28 昭和10年3月29日
在南京須磨(弥吉郎)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本の連盟脱退に関するアブノル連盟事務総
長声明に対する胡中国代表の反駁についての
中国紙報道

南京 3月29日後発
本省 3月29日後着

第三四八號

日本ノ聯盟脱退ニ關シ二十九日當地諸新聞ハ胡世澤カ
二十六日「アブノール」ノ發セル聲明ニ對シ反駁ヲ加ヘタ
ル旨報道シ居リ新民報ハ「ア」カ和平義務ヲ守ラサル國家
ノ脱退ニ際シ之ニ警告ヲ加ヘス却テ其ノ意ニ迎合スルハ不
當ナリト批評シ居レリ

支ヘ轉電セリ

29 昭和10年4月4日
在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本の連盟脱退に関する胡代表の言動につき
唐有壬に嚴重注意について

南京 4月4日後発
本省 4月4日後着

第三五四號

貴電第五五號ニ關シ(郭及胡公使ノ行動ニ付注意喚起方ノ件)

四日唐有壬ト會見ノ上嚴重注意ヲ喚起セルニ唐ハ郭泰祺ヨリ何等報告ナキモ新聞ニ依リ演說内容ヲ承知セルヲ以テ既ニ汪院長ニモ報告濟ナル處不謹慎ナル言辭ヲ濫リニ弄セサル様注意ヲ與フルコトトスヘシ胡世鐸^{（譯）}ヨリハ外國新聞記者ノ要請モアリ已ムナク公表文ニ及ヒタル次第ヲ報告越セルカ右ニ付テモ同様措置スルコトト致スヘシト答ヘ郭、胡何レモ宋子文ニ好キ旨附言シ居タリ
支、北平ヘ轉電セリ

30 昭和10年4月4日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛

連盟脱退に際し我が方態度を中国側に徹底に

共和黨九) 反對三十六(民主黨二十共和黨十四進歩黨一農勞黨一)ニテ所要數タル三分ノ二ノ得票ニ達セス(七票不足)遂ニ否決セラレタリ投票間際ニ至リ形勢樂觀ヲ許ササルコト看取セラルルヤ政府側及上院贊成派ニ於テハ飽迄本案ノ通過ヲ期シ大統領及國務長官ニ於テ議員ノ説得ニ努メラルル外最後ニ至リ曩ニ外交委員會ニ於テ否決セラレタル「ジョンソン」留保案(國際紛爭ヲ右裁判所ニ附託スル場合ニハ米國ト當該國トノ間ニ於ケル一般的又ハ特別ノ條約ヲ以テスル用意ニ依ルヲ要スト爲スモノニシテ一九二六年ノ決議中ニモ包含セラレ居ルモノナリ)ヲ上院議員「トーマス」ヲシテ新ニ提案セシムル等留保ノ點ニ付テモ讓歩ヲ示スニ至リ右「トーマス」案ハ結局否決セラレタルモ最早右ニ依リ加入問題ニ關スル議員ノ去就ヲ變更スルコト能ハス遂ニ前記ノ如キ敗北ヲ來シタル次第ナルカ右敗北特ニ反對票數ノ多カリシコトハ一般ニ豫想外トセラレ現政府ニトリテハ前議會ニ於ケル退役軍人恩給問題以來ノ大敗北ト看做サレ居ル處其ノ原因トシテハ(イ)歐洲政局ノ不安定ト戰債否認ニ對スル反感及右ニ伴ヒ歐洲政局ノ加入ノ傳統的政策ノ強調セラレタルコト(ロ)「ジョンソン」一派ノ戰術ノ巧妙

ついで

亞一機密第六六號
昭和十年四月四日

在中國(上海)
特命全權公使 有吉 明殿
外務大臣 廣田 弘毅

聯盟脱退ニ際シ我方ノ態度ヲ支那側ニ徹底方ノ件

極メテ信賴シ得ヘキ情報ニ依レハ國民政府ハ本年三月二十七日帝國聯盟脱退後ニ於ケル帝國政府ノ聯盟ニ對スル方針等探査ノ爲種々配意シ居ル模様ナル處右ニ關スル支那側ノ眞意ハ明カナラサルモ恐ラクハ支那一派ノ事大思想ヲ以テ他ヲ付度スル結果日本ハ昭和八年三月聯盟脱退通告發出當時ニ於ケル其ノ強硬ナル對聯盟態度ヲ時日ノ經過ト共ニ緩和シ行クニ非サヤナト憶測シ居ルモノトモ推察セラル然ルニ我方ノ態度ハ脱退通告當時ト何等變更ナク只一般の平和事業ニ付テハ引續キ聯盟ト協力スル意嚮ナルモ右ハ條約上其ノ他特殊ノ關係ヲ有スルモノハ別トシ他ノモノニ付テハ聯盟側力特ニ希望ヲ披瀝シ來ラハ之ニ應スル意味ニテ我方ヨリ進ンテ參加方ヲ聯盟ニ懇願セントスル如キ考毛頭

ナリシコト(ハ)「ハースト」系新聞ノ反對宣傳(ニ)本會議ノ討議永引キ其ノ間各議員ニ對シ國內各方面ヨリノ反對電報蟬集セルコト等ニ基クモノト認メラレ居レリ今回ノ敗北ニ依リ米國ノ裁判所加入ハ當分見込ナキニ至レルモノト云フヲ得ヘシ
海牙、壽府ニ轉電シ紐育ヘ郵送セリ

13 昭和10年1月31日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛(電報)

常設國際司法裁判所加入案否決に関する米國
各紙論調

ワシントン 1月31日後発
本省 2月1日前着

第四七號

往電第四三號ニ關シ

「國際司法裁判所加入案否決ニ關スル三十一日ノ新聞論調ヲ概括スルニ「ハースト」系新聞ヲ除キ多クノ新聞力其ノ通過ヲ支持シ來レル關係上何レモ右否決ヲ遺憾トシ右ニ依リ米國政府ノ國際協調政策ハ重大ナル蹉跌ニ遭遇シ

タリトナスト共ニ該問題カ其ノ「メリツト」ニ依リ取扱ハレス「ヒステリカル」ノ宣傳及「デマゴグエリー」ノ左右スル處トナリタルヲ痛嘆スル點ニ於テ一致シ居レリ紐育「タイムス」、「ヘラルド、トリビュン」及華府「ポスト」ハ擧テ裁判所加入カ米國ヲシテ歐洲ノ紛争ニ介入セシムルモノナリトノ所論ノ偏狹ナルヲ難シタルカ就中「タイムス」、「トリビュン」ハ裁判所加入ニ依リ問題ヲ外交手段ニ據ラスシテ司法的ニ解決スルコトコソ寧ロ歐洲紛争ノ圈外ニ立ツト共ニ聯盟ニモ接近セサル方法ナリト論シ又「ポスト」ハ昨年来米國力國際労働機關ニ加入セルコトヲ引用シ労働機關ニ加入スル方寧ロ其ノ國策ニ及ホス影響大ナリトナシタル上右加入案否決ノ影響トシテ從來政府ノ計畫セル各種平和促進案ニ對スル熱意モ之カ爲冷却セシメラレ海洋自由政策及「コンサルチーブ、パクト」等ニ關スル提案モ恐ラク放棄又ハ根本的ニ變更セラルヘシト論シ居レリ

ニ、裁判所加入案否決ニ對スル一般新聞紙上ノ通りナル處三十一日「イブニング、スター」所載「ダビッド、ローレンス」ハ右ニ關シ稍々異レル觀察ヲナシ居レルカ右ニ

タル委任統治部ヨリノ伺ニ對シ事務總長ハ委任統治條項ハ規約第二十二條ノ規定ニ依リ成立シタルモノナルモ夫レ自体獨立ノ國際約定ノ性質ヲ有スルモノナレハ其ノ條項力遵守セラルル限り受任國ノ地位ニハ何等變更無キモノト認ムル旨並ニ外部ニ對スル説明振等ニ關シテハ法律部ト協議ノ上「フォルミユラ」ヲ決定スヘキ旨ヲ指令シタル趣ナリ右内密聞込ノ儘米へ轉電シ、在歐各大使へ暗送セリ

15 昭和10年2月7日

広田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

連盟からの脱退確定を期に一般軍縮會議からも脱退することは大局上問題が多いので今後も傍觀者的立場を保持しつつ會議にとどまらるべき旨訓令

本省 2月7日発

第二二號 (極秘)

貴電第三三號ニ關シ

御來示ノ如ク一般軍縮會議討議事項中ニハ我方ニ於テ絶對ニ受諾シ難ク爲ニ我方ヲ困難ナル立場ニ陥ルル虞アル問題

依レハ加入案否決ヲ以テ鞏固ナル「ナシヨナリズム」ノ表現ナリトナシ外交的ニ觀レハ米國力歐洲諸國ニ對シ最早國際約束ノ締結ニ「インテレスト」ヲ有セサルコトヲ示シ海軍問題ニ付テモ英國トノ協調ヲ求メス強大ナル海軍力ト國防政策ノ強大化ニ賴ラントスルモノナルヲ示スモノナリトナセリ
海牙ニ轉電シ、海牙ヲシテ壽府ニ轉電セシム
紐育ニ郵送セリ

14 昭和10年2月2日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代
理兼總領事より
広田外務大臣宛(電報)

連盟脱退後の南洋群島委任統治に關シ連盟事務總長が脱退は受任國の地位に影響しない旨
のフォーミユラ決定方指令について

ジュネーブ 2月2日後発
本省 2月3日前着

第二七號

日本委任統治地域ノ歸趨ニ關シテハ今猶往々當地新聞記者間ニ於テ問題トナリ居ルニ顧ミ事務局情報部ハ相談ヲ受ケ

多數アリ聯盟脱退通告ノ機會ニ軍縮會議ヲモ脱退シタリトセハ此等ノ問題ヲ避ケ得タルカ如キモ當時帝國政府ニ於テハ諸般ノ關係ヲ考究シタル結果會議殘留ニ決定セル次第ニシテ其ノ後獨逸ノ脱退ヲ見ルニ至リ今や歐洲主要關係國間ニ於テ其ノ復歸ヲ促シ會議ヲ曲リナリニモ再開セシメムト折角努力シツツアル今日我ニ於テ軍ニ聯盟脱退完成ヲ口實トシテ會議ヨリ脱退スルコトハ大局上(横山局長代理發來電第二六號)ニ點及來ルヘキ海軍軍縮會議其他聯盟トノ協力問題例ヘハ司法裁判所裁判官後任選舉等ニ對スル影響ハ別トシテ)時期ニ非サルヘシ他方會議ノ前途ヲ推測スルニ假令獨逸ノ復歸ヲ見ルトスルモ會議ハ尙幾多ノ曲折ヲ經ヘク會議力專ラ歐洲問題ノ先決ヲ必要トスル現狀ニ鑑ミ從來通能ヲ限リ傍觀的態度ヲ持續スルコトト致度キ方針ナリ
壽府ニ轉電シ在歐各大使ニ暗送アリ度シ

16 昭和10年2月8日

在ジュネーブ横山國際會議事務局局長代
理兼總領事より
広田外務大臣宛(電報)

安達判事の後任問題につき連盟事務總長との
会談について

第三一號

ジュネーブ 2月8日後発
本 省 2月9日前着

貴電第六號ニ關シ（安達裁判官後任問題）

日本側ハ杉村大使推薦ニ決セリトノ聯合報道記事六日朝刊諸新聞ニ掲載サレタル爲往電第三〇號會見ノ際談偶々本件ニ及ヘルヲ以テ本官ハ在職中ニ死亡セル安達大使ノ後任トシテハ矢張日本人ヲ選任スルカ當然ト思ハルル故ニ日本内地ニテ早くモ此ノ種ノ風評カ行ハルルハ不可思議ナラスト述ヘタルニ事務總長ハ此ノ問題ハ從來我々ノ話合ヒタル各種委員會ノ問題トハ到底比較ニナラヌ程厄介且六ヶ敷事件ナリト嗟嘆セルヲ以テ本官ヨリ總會選舉ノ關係上個人的ニ有力ナル人物ヲモ立候補シ本邦側候補者ヲ押シ除ケテ當選ノ見込アリト謂フ如キ意味ナリヤト反問セルニ總長ハ本件ニ付個人的聲望モ大切ニハ相違無キカ國際關係上ノ政治的考量モ亦頗ル重要ナル決定力ナルヘシ過般ノ理事會ハ單ニ次回通常總會ニテ後任者選舉ヲ行フヘシト決シタルニ止マリ何人モ此ノ實質問題ニ觸ルルコトヲ避ケタルカ當時一部人士中ニハ今度常任理事國トナリタル蘇聯邦ノ代表者ヲ入

レネハナルマイト内話セル者モアリタリ依テ本官ハ成程事益々面倒ナルカ斯克テハ日本ハ海牙法廷トモ絶縁スルニ至ルヤモ知レス本件ニ付テハ後日改メテ御相談スルコトアリ得ヘシト告ケ置キタリ

貴電第六號ト共ニ參考ノ爲伊、白、獨、蘇、土へ暗送セリ英、佛、蘭へ暗送セリ

17 昭和10年2月13日 広田外務大臣より
在英國松平大使宛（電報）

麻薬製造制限条約我が方留保に対する解釈が反対を意味するものでない旨確認方訓令

本 省 2月13日前4時15分発

第二九號

壽府宛往電第一七號ニ關シ

帝國留保ニ對スル英佛等ノ事務總長宛回答ハ壽府ヨリ御入手ノ事ト存ズルモ（右回答中ノ解釋ニ付樞府側トモ内々折衝ヲ行ヘル處樞府側ニハ帝國政府ガ麻薬關係諸委員會ノ委員任命參加ノ爲理事會ニ招請セラル、コトハ右諸國ノ解釋ニ依リ不確實ナルヲ免レズト爲スモノアリ）我方留保ノ

本 省 2月25日前6時10分発

第一七號

往電合第一二九號ニ關シ

前回選舉ノ際ノ經緯ニ鑑ミ裁判所書記「ハンマーシヨルド」ノ立候補モ懸念セラル、處果シテ同人ニ右意向アル模様ナルニ於テハ今回ハ安達裁判官補闕ノ爲ノ特別選舉ノコトニモアリ同人ニ對シ右往電ノ趣旨ヲ適宜說示シ同人ニ於テ今回ハ立候補ヲ思止ル様可然懇談ヲ遂ケラレ結果回電アリ度シ
尙各裁判官殊ニ巴里講和會議以來長岡博士ト昵懇ノ間柄ナル「セシル・ハースト」及「フロマヂオ」、「アンデロツチ」ニ對シテモ夫々冒頭往電ノ趣旨ニ依リ其ノ間接的援助ヲ依頼セラレ度シ

19 昭和10年2月25日 広田外務大臣より
在英國松平大使宛（電報）

安達判事の後任に長岡博士推薦につき任国裁判官団に申入れ方訓令

付 記 二月九日起草高裁案

主旨ハ阿片常設中央委員會阿片諮問委員會及保健委員會ノ委員任命ニ關スル理事會ノ議ニ參與シ得ル地位ヲ保持セントスルモノニシテ（實際理事會ニ出席スルヤ否ヤハ別問題ナルモ實際問題トシテハ阿片條約第十九條第四項獨米同様に之等委員會ノ委員任命參加ノ爲招請セラル、コトヲ期待ス）英佛等ノ解釋ガ我方ノ主旨ニ反對スルモノナリトハ解セラレザルモ英佛側ニ於テ我方ノ主旨ヲ諒解シ理事會ノ議ニ參與方賛成シ居レルモノナリヤ確メ置キ度キニ付貴官ハ壽府宛電報ニ記載ノ當方ノ解釋ニ前記ノ趣旨ヲ付加セラレ右ニ關スル責任國政府ノ意向ヲ御確メノ上至急回電アリ度シ
（尙我方留保ノ趣旨等ニ付テハ委細客年條一機密合第三七五號參照アリ度シ）
本大臣ノ訓令トシテ佛ニ轉電アリタシ

18 昭和10年2月25日 広田外務大臣より
在オランダ武富公使宛（電報）

安達判事の後任に関しハマーシヨルドの立候補断念申入れ方訓令

「常設國際司法裁判所安達裁判官後任候補者ノ推薦ニ關スル件」

本省 2月25日前7時発

合第一二九號

廿二日附ヲ以テ聯盟事務總長ヨリ故安達國際司法裁判所裁判官後任候補者ノ指名方我方仲裁裁判所裁判官ヘ委嘱シ來レル處本邦仲裁裁判官團ニ於テハ後任候補者トシテ長岡春^(ハルカス)博士ヲ推薦スルコトニ決定シタルニ付貴官ハ成ル可ク速ニ貴任國(兼任國アラバ之ヲ含ム)ノ國別仲裁裁判官團及貴任國政府ニ對シ適宜可然連絡ヲ取ラレ成ル可ク貴任國ノ裁判官團ヲシテ長岡博士ヲ候補者トシテ推薦セシムル様精々御盡力ノ上結果回電アリ度シ

尙右申出ノ際ハ長岡博士ノ閱歷聲望等ニ付充分説明ノ要アルコト勿論ナルモ一般的理由トシテハ裁判所規程第九條後段ノ「總體トシテ重ナル文明ノ形態及世界ノ主タル法律ノ系統ヲ代表スヘキ」云々ノ趣旨及死亡、又ハ辭任シタル裁判官ノ後任ハ必ラズ同裁判官ト同一國籍ノ後任者ニ依リ補充セラレ居ルコト從來ノ例ナルコトヲ説示セラレ度尙帝國政府トシテハ聯盟ヲ脫退シタルモ裁判所トハ世界最高ノ平

和機關トシテ從來同様協力スル方針ナルヲ以テ我方トシテハ今回ノ選舉ノ結果ヲ極メテ重要視シ居ル次第ニシテ萬一本邦候補者ノ選任ヲ見ザルガ如キコトアラバ輿論ノ手前裁判所トノ關係ノ繼續ハ困難ナルベキヲ虞ル政府トシテハ固ヨリカカル不幸ナル事態ノ招來セラレザラムコトヲ望ムモノナル旨適宜説明セラレ度シ

(轉電先)

本電本省ヨリ直接打電ノ分
英、佛、米、伯、支、暹羅
佛ヘハ

塊ヲ除ク大公使及壽府ヘ至急情報通り轉電アリ度シ
土ヨリ波斯ヘ、瑞典ヨリ芬蘭ヘ

轉電アリ度シ

米ヘハ

墨、哥、玖ヘ轉電アリ度シ

伯ヘハ

亜、秘、智ヘ轉電アリ度シ

ト附記ノ事

(付記)

高裁案

昭和十年二月九日起草

昭和十年二月 日決裁

常設國際司法裁判所安達裁判官後任候補者ノ推薦ニ關スル件

故安達常設國際司法裁判所裁判官ノ逝去ニ依リ生シタル空闕補充ノ爲ノ補缺選舉ハ本年九月ノ國際聯盟總會及理事會ニ於テ同裁判所規程第十四條ノ規定ニ基キ行ハルコトトナリ居リ國際聯盟事務總長ハ右規程第五條第一項ノ規定ニ從ヒ選舉ノ日ヨリ少クトモ三ヶ月前即チ大体本年六月以前ニ右裁判所加盟各國ニ於ケル海牙常設仲裁裁判所裁判官團(我方裁判官團ハ富井顧問官、織田、山田兩博士)ニ後任裁判官候補者ノ指名ヲ依嘱シ來ルヘク各國裁判官團ハ候補者二名(自國人ハ内一名ニ限ル)ヲ指名シ得ル次第ナリ然ル處辭任又ハ死去シタル裁判官ノ後任ハ同裁判官ト同一國籍人ニ依リ補充セララルコト從來ノ例ナルモ帝國ハ曩ニ國際聯盟脫退ノ通告ヲ發シ近ク非聯盟國トナルベキニモ鑑ミ今回ノ補缺選舉ハ必スシモ右先例ノミヲ以テ律スルコトヲ得サルヘク從テ他ノ聯盟國人ヲ排シテ本邦人候補者ヲ當選

セシメンガ爲ニハ早ニ及ンテ適當ナル候補者ヲ決定シ諸般ノ準備ニ萬遺憾ナキヲ期スルコト必要ナリト認メラル就テハ既ニ我國別裁判官團ニ於テハ本邦人候補者トシテ法学博士長岡春一氏ヲ推薦スルコトニ内議纏リタルコトニモアリ裁判所規程第六條ニ基キ且先例ニモ則リ近日中ニ候補者推薦ノ内協議會ヲ開催スルコト適切ナリト思考セラルルニ付外務大臣ニ於テ富井、織田、山田ノ三仲裁裁判官ノ依頼ニ基キ三月初旬左記人士ヲ招請シ懇談會ヲ催スコトト致度シ右仰高裁 (招請文案別紙ノ通り)

記

和仁大審院長

富井帝國學士院第一部長

末弘東京帝國大學法學部長

山田京都帝國大學法學部長

石原東北帝國大學法學部長

豐田九州帝國大學法學部長

船田京城帝國大學法學部長

小泉慶應義塾大學總長

田中早稻田大學總長

鵜澤明治大學總長

原中央大學學長

山岡日本大學總長

阪谷專修大學總長

小山法政大學總長

和田同志社大學學長事務取扱

仁保關西大學學長

佐々木立命館大學學長

立作太郎

山川端夫

(別紙)

拜啓陳者故安達常設國際司法裁判所裁判官ノ逝去ニ依リ生シタル空闕補充ノ爲ノ補缺選舉ハ本年九月ノ國際聯盟總會及理事會ニ於テ同裁判所規程第十四條ノ規定ニ從ヒ行ハルヘキ筈ニ有之又國際聯盟事務總長ハ同裁判所規程第五條第一項ニ基キ選舉ノ日ヨリ少クトモ三ヶ月前裁判所加盟國ノ常設裁判所裁判官團ニ對シ裁判官候補者ノ推薦ヲ依囑致ス筈ニ有之候處同裁判所規程第六條ノ規定ニ依レハ各國ノ常

20 昭和10年3月2日

広田外務大臣より
在中国有吉(明)公使宛(電報)

連盟脱退確定に鑑み中国の常任理事要求には
無関心を持すべき旨訓令

本省 3月2日後3時発

第四六號

貴電第一九三號ニ關シ

客年聯盟總會ニ於テ非常任理事再選資格要求ヲ否決セラレタル支那ガ近キ將來ニ於テ常任理事ニ指名セラルヘシトハ豫想シ難キモ帝國ハ近ク聯盟ヲ脱退スヘキコトニモアリ本件ニ付テハ全然無關心ノ態度ヲ持スヘキコト貴見ノ通りナリ

北平、南京、廣東、漢口、天津へ暗送アリ度シ

21 昭和10年3月15日

広田外務大臣より
在仏国佐藤大使宛(電報)

麻薬製造制限条約の連盟脱退確定前に留保宣言通告する予定上仏国政府の意向至急確認方訓令

設仲裁裁判所裁判官團ハ右推薦ヲ爲スニ先立チ自國ノ最高裁判所、法科大學、法學ノ研究ニ從事スル學士院等ノ意見ヲ徵スルコトヲ懲慝セラレ居リ候間常設仲裁裁判官男爵富井政章、織田萬、山田三良ノ三氏ノ主催ノ下ニ大審院、各法科大學、及帝國學士院第一部ノ代表者ニ列席ヲ請ヒ本邦側ノ仲裁裁判所裁判官團ヨリ推薦スヘキ候補者ニ關シ豫メ内協議會ヲ催スコトト相成右ニ付準備方御依頼ノ次第有之候ニ付來ル三月五日(火曜日)午後十二時半ヨリ外務大臣官邸ニ於テ右内協議會開催可致候間萬障御繰合セ御出席被下度萬一御出席相叶ハサル場合ニハ本件ニ關スル御意見當日迄ニ當方迄御申越候ハ幸甚ノ至ニ御座候右得貴意候

敬具

尙同裁判所規程第五條第二項ニ依リ本邦側裁判官團ヨリ推薦スヘキ裁判官候補者ニ付富井、織田、山田ノ諸裁判官ノ所見ヲ御參考迄ニ申上クレハ本邦人候補者トシテ法學博士長岡春一氏ヲ推薦致度趣ニ有之候

昭和十年二月 日

外務大臣 廣田 弘毅

第四九號(至急)

壽府發本大臣宛電報第四二號ニ關シ

佛國側回答遅延ノ爲遅クトモ十五日樞府審査委員會ニ、廿日定例本會議ニ附議スル當方ノ豫定ハ不可能トナリ殘ル處ハ十九日審査委員會廿四日臨時本會議ヲ要求シ脱退前ニ留保宣言ヲ通告スルノ外ナシ就テハ佛政府ニ對シ往電第四七號申進ノ點ニ付即時確答ヲ求メラレ若シ反對留保ナルニ於テハ帝國政府ガ條約ノ批准ヲ爲シ得ザルニ至ルコトヲ申入レラレ結果十七日中當方ニ接到スル様回電アリ度シ
英及壽府ニ轉電アリタシ

22 昭和10年3月16日

在英国松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

麻薬製造制限条約の日本留保に対する英国政府の解釈は反対留保にあらずとの外務省極東部長の談話について

ロンドン 3月16日後発
本省 3月17日前着

第九七號（至急）

往電第六八號ニ關シ

十六日求メニ依リ宮崎外務省極東部長ヲ往訪シタル處同部長ハ我方質問事項ニ對シ回答トシテ左記要旨ノ本使宛書翰ヲ手交セリ

「我方質問ノ第一點（壽府宛貴電第一七號（一））ニ對シ「右ハ將ニ英國政府ノ意見ヲ表明シ居ルモノナルカ英國政府ノ陳述ハ如何ナル意味ニ於テモ反對留保ト解セラルヘキニ非サルコトヲ明カニセントス」

「第二點（同上壽府宛貴電（二））ニ對シ「英國政府陳述ノ意味ハ帝國政府ノ留保ハ夫レ丈ニテハ本件委員會委員長任命ニ際シ帝國代表者カ理事會ノ一員トシテ臨席スルヲ可能ナラシムル法律の效力ヲ有スルモノトハ思考セスト云フニ在リ」依テ宮崎ハ第二點ニ關シ我方留保ノ趣旨ハ本件委員會委員ノ任命ニ關スル理事會ノ決議ニ參與シ得ル權威ヲ保持セントスルモノナルコト我方カ本件任命ニ參加セリトテ之カ爲理事會ノ構成ニ變化ヲ生スルモノニ非スト解スヘキコトヲ述ヘタルニ對シ「オールド」部長ハ右ノ點ニ付上述ノ通り申述ヘルノ外ナシ尤モ英國側トシテハ日本代表者ノ參加

第八五號

往電第八三號ニ關シ

十六日午後六時半漸ク佛側ノ回答確定セル趣ニ依リ本使「マッシグリー」ニ面會「マ」ヨリ要點別電第八六號ノ如キ「ノート」ヲ手交スルト共ニ法律問題トシテハ右ノ如ク答フル外ナキモ事實問題トシテハ日本ノ協力ハ切ニ希望スル處ナルニ依リ事前ニ非公式ニ協定ヲ遂クルナリ或ハ他ノ方法ニ依ルナリ具體的必要ノ起キタル際ニ適當ノ方法ヲ講シ阿片條約ニ付テハ米獨ニ準シ取扱フヘシ英國トモ協議シ同國モ同様ノ回答ヲナスコトト信スト述ヘタリ

右佛側回答ハ御期待ニ副ハサルヤヲ惧ルルモ時日ノ餘裕モ無ク詮スル所之以上ヲ求ムルコト困難ト存セラル

本電別電ト共ニ英ニ轉電シ壽府ニ暗送セリ

（別電）

パリ 3月17日前發
本省 3月17日後着

第八六號

Le Ministère des Affaires Étrangères

方ニ付日本ト聯盟側トノ間ニ何等カノ「ブラクチカル、メソッド」ヲ見出し得ハ好都合ト考ヘルモノニテ右ニ對シテハ敢テ反對セントスルモノニ非ス何レニセヨ英國政府ノ解釋カ日本ノ留保ニ對スル反對留保ノ趣旨ニ非サルハ先般既ニ申述ヘタル通ナリト答ヘタル趣ナリ關係書郵送ス

佛、壽府ヘ郵送セリ

23 昭和10年3月17日 在仏国佐藤大使より
広田外務大臣宛（電報）

麻薬製造制限条約に関する我が方留保に対する
仏国政府回答について

別電 三月十七日發在仏国佐藤大使より広田外務大臣

宛第八六号

右仏国政府回答

付記 作成日、作成局課不明

同回答訳文

パリ 3月17日前發
本省 3月17日後着

a l'honneur de faire connaître à l'Ambassade Impériale du Japon que la communication précitée du Gouvernement Français avait simplement pour but de marquer que dans l'esprit du Gouvernement de la République la réserve japonaise envisagée ne peut comporter des conséquences juridiques susceptibles de conférer à un représentant japonais le droit de siéger au Conseil de la Société des Nations lorsque celui-ci procède à l'examen des questions relatives aux commissions de l'opium. De l'avis du Gouvernement Français il est en effet impossible de limiter la liberté d'appréciation du Conseil qui a toute latitude pour prendre telle mesure qu'il jugera la mieux appropriée à la circonstance et qui voudra certainement préoccuper de la situation à laquelle se réfère la réserve du Gouvernement du Japon.

（付記）

（極秘） 同上邦譯文

佛蘭西政府ノ前記通牒ハ同政府ノ解釋ニ從ヘバ本件日本ノ留保ハ聯盟理事會ガ阿片ノ諸委員會ニ關スル諸問題ヲ討議セントスルトキ日本代表者ニ理事會出席スル權利ヲ與フルガ如キ法律上ノ結果ヲ包含セザル旨ヲ單ニ記載セルニ外ナラザリシコトヲ佛蘭西外務省ハ日本帝國大使館ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候佛蘭西政府ノ見解ニ從ヘバ理事會ガ情勢ニ最モ適當ナリト思惟スル手段ヲ採ルノ自由ヲ有シ且必ズヤ日本政府ノ留保ニ云フ狀態ヲ考慮スベキ理事會ノ裁量ノ自由ヲ制限セントスルハ事實不可能ナルモノニ有之候

24 昭和10年3月22日

広田外務大臣より
岡田(啓介)内閣総理大臣宛

麻薬製造制限条約の批准奏請

條一機密第一四二號

昭和十年三月二十二日

外務大臣 廣田 弘毅

内閣總理大臣 岡田 啓介殿

麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約御批准奏

請ノ件

此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕昭和六年七月十三日「ジュネーヴ」ニ於テ帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ署名シ且昭和十年三月二十五日附ヲ以テ帝國政府ガ宣言スル所アリタル麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ右帝國政府ノ宣言ヲ存シテ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百九十年昭和 年 月 日

ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈴セシム

御名國璽

外務大臣副署

宣 言

Declaration

The Japanese Government declare that, in view of the necessity of close co-operation between the High Contracting Parties in order to carry out most effectively the provisions of the Convention for Limiting the Manufacture and Regulating the Distribution of Narcotics Drugs, signed at Geneva

昭和七年十二月九日附貴内閣總理大臣宛内田外務大臣發條一機密第五一四號ヲ以テ麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約ノ御批准奏請致置候處其ノ後帝國ノ聯盟脫退通告ノ結果同條約御批准ニ先チ帝國政府ニ於テ別紙案文ノ通ノ留保宣言ヲ爲スノ必要生ジタルニ付上奏案及御批准文案別紙ノ通訂正致度候條可然御取計相成度此段申進候也
追テ帝國政府宣言及同邦譯文各四部添付致置候

(上奏案)

昭和六年七月十三日「ジュネーヴ」ニ於テ帝國全權委員ガ關係各國全權委員ト共ニ署名シタル麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約ヲ右ニ關シテ昭和十年三月二十五日帝國政府ノ爲シタル宣言ヲ存シテ御批准相成様仕度別紙御批准文案及帝國政府宣言相添ヘ此段謹テ奏ス

昭和十年三月二十五日

外務大臣 廣田 弘毅

(御批准文案)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)

on July 13, 1931, they understand that the present position of Japan, regardless of whether she be a member of the League of Nations or not, is to be maintained in the matter of the composition of the organs and the appointment of the members thereof mentioned in the said Convention.

March 25th, 10 Showa(1935).

宣 言

日本國政府ハ千九百三十一年七月十三日「ジュネーヴ」ニ於テ署名セラレタル麻薬ノ製造制限及分配取締ニ關スル條約ヲ最有効ニ實施スルニハ各締約國ノ密接ナル協力ヲ必要トスルニ鑑ミ右條約ニ掲ゲラレタル諸委員會ノ構成ヲ定メ及其ノ委員ノ任命ヲ爲スニ當リテ日本國ノ現ニ有スル地位ハ日本國ガ聯盟國タルト否トヲ問ハズ維持セラルベキモノナリト了解スルコトヲ宣言ス

昭和十年三月廿五日

25 昭和10年3月23日
在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

婦人児童委員会および阿片諮問委員会への日
本招請につき阿片部長との会談について

ジュネーブ 3月23日後発
本省 3月23日後着

第四六號

二十二日阿片部長ノ求ニ應シ往訪セルニ

「四月初旬ノ臨時總會ニテ婦人児童及阿片ノ兩諮問委員會
ヘ日本招請ノ決議ヲ取付ケ協力ノ中斷ヲ避ケ度キ希望ナ
ルカ御承知ノ通事務局ニ於テ右提案ノ責任ヲ執リ得サル事
情アル故三月二十七日前後ニ貴官ヨリ事務總長ニ對シ「日
本ハ今回愈非聯盟國トナルモ人類ノ福祉ニ貢獻スヘキ諸事
業ニ付過去ニ於ケルト同様ノ方針ヲ保持スヘシ右爲念通報
ス」ト云フ如キ一種ノ挨拶狀ヲ寄セラルルヲ得ハ自分等ハ
之ヲ契機トシテ目的貫徹ニ努ムヘシ是非共政府ヘ稟請ヲ請
フ」ト懇談セルニ付本官ハ其ノ誠意ヲ多トスルモ右ハ我方
ヨリ協力ヲ提案セル如ク曲解セラルル處アリ内地輿論ノ關
係モアリ政府ノ同意ヲ得ルコト至難ト思ハルト答ヘ置キタ

ナリ居ルヲ the said Convention ト訂正方取計レタシ
英、佛ヘ轉電アリタシ

27 昭和10年3月25日
在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事宛(電報)

麻薬条約に関する我が方留保宣言文を事務総
長に發送方訓令

本省 3月25日後5時25分発

第三〇號(大至急)

往電第二九號ニ關シ

宣言文末尾ニ March 25th, 10 Showa (1935) ト附加シタ
ル上事務總長宛貴官通告ノ冒頭ヲ左ノ如クシ發送セラレ發
送ノ上ハ其旨同電アリ度シ

Referring to my letter (A5001/4) dated January 23rd,
1935, and under instructions from my Government,
I have the honour to inform you that the Japanese
Government, on March 25th, 1935, made the
following declaration:

尙今次決定ノ經緯ハ外部ニハ述ベラレザル様致度シ

リ

26 昭和10年3月23日
在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事宛(電報)

麻薬製造制限条約の留保宣言を二十五日付で
行うにつき連盟事務総長に申入れ準備方訓令

本省 3月23日後6時発

第二九號(至急)

當方トシテハ麻薬條約ノ樞府通過后帝國政府ノ留保宣言ヲ
爲ス豫定ナリシ處佛國ノ回答遅延ノ爲聯盟脫退完成前ニ樞
府ノ本會議通過不可能トナリタルヲ以テ政府トシテハ其ノ
責任ニ於テ脫退前ニ宣言ヲ爲シ右宣言ヲ附シテ御批准ヲ仰
グコトニ決定シタルニ依リ貴官ハ帝國政府ハ二十五日附ヲ
以テ昭和八年往電第一〇號(全文引用ノコト)ノ宣言ヲ爲
シタル旨及右ノ次第ヲ各締約國ニ傳達アリ度旨同日附公文
ヲ以テ事務總長ニ申入方準備シ置カレタク當日又ハ二十六
日當方ヨリノ電報ヲ俟テ發送アリタシ尙事務局側回章ニ依
レバ limiting 及 regulating ノ頭文字ガ小文字ニナリ居ルニ
付右ヲ何レモ大文字トシ又末尾ニ this said Convention ト

英佛ニ暗送アリ度シ

28 昭和10年3月29日
在南京須磨(弥吉郎)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本の連盟脱退に関するアブノル連盟事務総
長声明に対する胡中国代表の反駁についての
中国紙報道

南京 3月29日後発
本省 3月29日後着

第三四八號

日本ノ聯盟脫退ニ關シ二十九日當地諸新聞ハ胡世澤カ
二十六日「アブノール」ノ發セル聲明ニ對シ反駁ヲ加ヘタ
ル旨報道シ居リ新民報ハ「ア」カ和平義務ヲ守ラサル國家
ノ脫退ニ際シ之ニ警告ヲ加ヘス却テ其ノ意ニ迎合スルハ不
當ナリト批評シ居レリ
支ヘ轉電セリ

29 昭和10年4月4日
在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本の連盟脱退に関する胡代表の言動につき
唐有壬に嚴重注意について

南京 4月4日後発
本省 4月4日後着

第三五四號

貴電第五五號ニ關シ（郭及胡公使ノ行動ニ付注意喚起方ノ件）

四日唐有壬ト會見ノ上嚴重注意ヲ喚起セルニ唐ハ郭泰祺ヨリ何等報告ナキモ新聞ニ依リ演說内容ヲ承知セルヲ以テ既ニ汪院長ニモ報告濟ナル處不謹慎ナル言辭ヲ濫リニ弄セサル様注意ヲ與フルコトトスヘシ胡世鐸^{（譯）}ヨリハ外國新聞記者ノ要請モアリ已ムナク公表文ニ及ヒタル次第ヲ報告越セルカ右ニ付テモ同様措置スルコトト致スヘシト答ヘ郭、胡何レモ宋子文ニ好キ旨附言シ居タリ

支、北平ヘ轉電セリ

30 昭和10年4月4日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛

連盟脱退に際し我が方態度を中国側に徹底に

無之コト申迄モナキ次第ナリ（聯盟側トシテモ例ヘハ阿片事業等ニ付緊密ノ關係ヲ有スル帝國トノ協力ヲ忌避スルニ於テハ該事業ノ世界的普遍性ハ滅却セラレ其ノ權威及價値カ全ク地ニ墜ツヘキコトハ聯盟脱退完成當時ニ於ケル「タイムス」論說ノ通ナリ）

翻ツテ聯盟自體ノ地位ヲ觀察スルニ日支事件以來其ノ權威ハ益々失墜シ「チャコ」紛爭解決ニ失敗シタル結果「パラグアイ」ハ聯盟脱退ヲ通告シ又伊太利「エチオピア」紛爭ニ於テ「エチオピア」ガ再三聯盟ノ裁決ヲ要求シ居ルニ拘ラス伊太利ハ紛爭ノ直接解決ヲ主張シ佛國亦羅馬協定ノ代償トシテ伊國ノ主張ヲ默過シ居ル形勢ナル上獨逸ノ「ヴェルサイユ」條約軍事條項ノ一方の廢棄聲明ニ依リ釀成セラレタル難局ヲ處理スル實力ナク歐洲ノ平和機構トシテノ根柢サハ動搖シツツアリ今や聯盟ハ歐洲一二大國ノ傀儡タルカ然ラスンハ單ナル「ヴェルサイユ」條約執行機關タルニ過キサルヲ如實ニ示シツツアル有様ニテ況ンヤ到底東亞ノ問題ニ迄手ヲ延ハス餘裕ナク（我方トシテモ之ヲ阻止スルノ態度ヲ執リ居ルコト御承知ノ通ナリ）結局聯盟ハ我方ノ決意ニモ顧ミ少クトモ東亞ニ於テハ最早何等重要視シ得ヘ

ついで

亞一機密第六六號
昭和十年四月四日

外務大臣 廣田 弘毅

在中國（上海）

特命全權公使 有吉 明殿

聯盟脱退ニ際シ我方ノ態度ヲ支那側ニ徹底方ノ件

極メテ信賴シ得ヘキ情報ニ依レハ國民政府ハ本年三月二十七日帝國聯盟脱退後ニ於ケル帝國政府ノ聯盟ニ對スル方針等探查ノ爲種々配意シ居ル模様ナル處右ニ關スル支那側ノ眞意ハ明カナラサルモ恐ラクハ支那一派ノ事大思想ヲ以テ他ヲ付度スル結果日本ハ昭和八年三月聯盟脱退通告發出當時ニ於ケル其ノ強硬ナル對聯盟態度ヲ時日ノ經過ト共ニ緩和シ行クニ非スヤナト憶測シ居ルモノトモ推察セラル然ルニ我方ノ態度ハ脱退通告當時ト何等變更ナク只一般の平和事業ニ付テハ引續キ聯盟ト協力スル意嚮ナルモ右ハ條約上其ノ他特殊ノ關係ヲ有スルモノハ別トシ他ノモノニ付テハ聯盟側力特ニ希望ヲ披瀝シ來ラハ之ニ應スル意味ニテ我方ヨリ進ンテ參加方ヲ聯盟ニ懇願セントスル如キ考毛頭

キ存在ニ非サルコト周知ノ事實ナリ

敍上ノ次第ナルヲ以テ既ニ一再ナラス聯盟依存、以夷制夷ノ失敗ヲ如實ニ體驗セル支那トシテハ此ノ際翻然東亞ノ大局ニ覺醒シ遲疑逡巡スルコトナク只管東亞ノ安定勢力タル帝國ト共ニ東亞平和維持ノ責任ヲ分ツノ決意ヲ固ムルコト是レ其ノ採ルヘキ唯一ノ方途タルヘシ右ハ更メテ申迄モナク貴方ニ於テ屢次支那側ニ御説示相成タル所ナルモ本信冒頭ノ次第モアリ御如才ナカルヘキモ此ノ上共右徹底方御配慮相成度此段申進ス

本信寫送付先 北平、南京、上海、天津、青島、漢口、濟南、福州、廣東、廈門、香港、在滿大使、壽府

31 昭和10年4月13日 広田外務大臣より
在ジュネーブ横山國際會議事務局長代
理兼總領事宛（電報）

麻薬製造制限条約の批准裁可について

本省 4月13日後2時10分発

第三五号

麻薬條約批准ノ御裁下^{（下）}アリタルニ付近ク御批准書郵送ス右念ノ爲事務局側ニ御通知置キ相成り度シ

英佛ニ暗送アリ度シ

32 昭和10年5月15日 赤木(朝治)社会局長官より
重光外務次官宛

國際聯盟脱退後の我が方の國際労働機關に對
する分担金について

收勞第九四號 (5月16日接受)

昭和十年五月十五日

社會局長官(印)

外務次官殿

國際労働機關分擔金ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテ曩ニ昭和九年九月三日付收勞第二一九號及本年四月六日發勞第三四號ヲ以テ一應通知致置候處今般國際労働事務局ヨリ本邦政府ノ國際労働機關ニ對スル千九百三十五年度(千九百三十五年三月二十八日以降十二月三十一日ニ到ル期間)及千九百三十六年度分擔金ニ關シ別添寫ノ通來翰有之候趣ニテ千九百三十五年度分擔金計算方法ニ關スル覺書寫ト共ニ在壽府帝國事務所長ヨリ報告有之候條此段及通知候也

(別添)

理第六九號

昭和十年四月十二日

國際労働機關帝國事務所

所長 中野 善敦

社會局長官 赤木 朝治殿

國際聯盟脱退ニ於ケル本邦政府ノ國際労働機關
ニ對スル分擔金ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ曩ニ昭和九年八月二日理第二八五號及本年四月三日往電第二八號ヲ以テ一應報告致置候處今般國際労働事務局ヨリ本邦政府ノ國際労働機關ニ對スル千九百三十五年度(千九百三十五年三月二十八日以降十一月三十一日ニ到ル期間)及千九百三十六年度分擔金ニ關シ別添寫ノ通來翰有之候條千九百三十五年度分擔金計算方法ニ關スル覺書寫ト共ニ及移牒候條御查收相成度

(別添)

國際聯盟脱退ニ關聯スル労働機關ヘノ帝國ノ分擔

金ニ關スル件事務局長書翰

一九三三年三月二十七日日本政府ノ通告セシ國際聯盟脱退ノ豫告期間滿了トナリタルニ鑑ミ余ハ日本政府ノ國際労働事務局ニ對スル分擔金ニ關スル將來ノ措置ニ付敢ヘテ貴下ノ注意ヲ喚起セント欲ス。

此ノ問題ハ一九三六年度豫算ニ關聯シテ次回理事會會議ニ於ケル討議ニ上ルベシ。昨年吉阪氏ノ諒解ヲ得タル處ニ從ヒテ一九三五年度及一九三六年度ニ付テノ日本ノ分擔金ハ非國際聯盟國ノ分擔金ノ中ニ含メラレ且從前通りノ單位數ニ基キテ算出セラレタリ。吉阪氏ノ諒解アリト雖モ尙其ノ上ニ貴下若シ日本政府ガ右基礎ニ基キテ其ノ支拂ヲ繼續スルコトヲ承認スル旨ノ聲明ヲ財政委員會ニ對シ爲シ得ラレシニハ理事會ニトリテ好都合ナルハ明白ナルベシ。

今後日本ノ分擔金ハ直接國際労働事務局ニ支拂ヲ要ス。日本ノ分擔金ハ引續キ從前通りノ基礎ニ基キテ算出セラルルコトト假定シテ一九三五年三月二十八日より同年十二月三十一日ニ至ル期間ニ付テノ分擔金額ガ如何ナル方法ニ依リ算出セラレタルカヲ説明セント欲ス。此ノ件ニ關聯シテ余ハ一九三四年七月二十四日ノ余ノ書簡ヲ参照セラレンコ

トヲ乞フ。右書簡中ニハ若干ノ情報ノ記述在リ。尙同書簡ニ於テ余ハ國際労働機關ノ豫算ガ未ダ國際聯盟總會ニ依リ表決セラレ居ラズ且又亞米利加合衆國モ國際労働總會ヨリ同國ニ宛テタル國際労働機關加入ニ關スル勸告ニ未ダ回答セザリシヲ以テ數字ハ單ニ暫定的ナルモノニ過ギザルコトヲ指摘セリ。

現在余ハ一九三四年七月二十四日ノ余ノ書簡ニ包含セラレタル情報ニ代ル確定的情報ヲ提供スルコトヲ得ルヲ以テ余ハ茲ニ一九三五年三月二十八日より十二月三十一日ニ至ル期間ニ付テ日本政府ガ國際労働機關ニ支拂フベキ分擔金及其ノ分擔金ノ決定セラレタル方法ヲ示ス覺書ヲ同封ス。此ノ方法及日本ガ一九三五年度トシテ支拂フベキ分擔金トシテ定メラレタル數字即チ恩給基金ノ分擔金ヲも含メテ三四五、六三一、〇三金法ニ對スル貴國政府ノ承認ニ付能フ限り速カニ通告セラレンカ幸甚ノ至ナリ。

國際労働事務局理事會帝國政府代表

中野 善敦殿

右ニ關聯シテ一九三四年七月二十四日ノ余ノ書簡發送後國際聯盟總會ハ一九三五年度ノ國際労働機關ノ豫算ヲ少シ

ク増加シハ、五三六、〇四六金法ヨリ現在ノ八、六八六、〇四六金法トナレルコトヲ附言セン尙余ハ一九三四年七月二十四日ノ余ノ書簡ニ記述セシ國際勞働機關ノ支出ノ割當ニ關スル假ノ指示ハ國際聯盟ヘ新ニ「ソヴィエツト」社會主義聯邦共和國「エクワドル」「アフガニスタン」ノ諸國ガ加入シ國際勞働機關ニ亞米利加合衆國ガ加入セシ爲及國際聯盟加盟國ノ間ノ單位總數ノ割當ガ變更セラレタル爲變化セシコトヲ附言セント欲ス。

(署名) ハロルド、バトラー

(別 添)

一九三五年三月二十八日ヨリノ國際勞働機關

ニ對スル日本ノ分擔金ニ關スル覺書

(一)日本ハ既ニ一九三五年一月一日ヨリ三月二十七日ニ至ル期間ニ付其ノ分擔金ヲ國際聯盟ニ支拂ヒタリ。右分擔金ノ金額ハ「ソヴィエツト」社會主義聯邦共和國及「アフガニスタン」ノ國際聯盟加入ヲ考慮シテ一九三四年國際聯盟總會ニ依リ作成セラレタル分擔金ノ表ニ基キテ算出セラレタリ。

國際聯盟事務總長ヨリ國際勞働事務局ニ支拂ハレタル額ハ一一九、九九九・九五金法ニシテ右金額ハ左ノ如クシテ算出セラレタリ。

$$\frac{13,9726}{1011,38903} \times \frac{8,686,046}{1} = 119,999.95 \text{ 金法}$$

一三・九七二六ナル數字ハ日本ニ割當テラレタル六十ノ單位ガ日本ノ國際聯盟加盟中ノ期間ニ付テ占ムル割合ヲ示シ一〇・一一・三八九〇三ハ一九三三年度ニ付國際聯盟加盟國ニ割當テラルル單位總數ニ該當シハ、六八六、〇四六ハ勞働機關ノ豫算ニ該當ス。

(二)一九三五年三月二十八日ヨリ同年十二月三十一日ニ至ル期間ニ付テノ國際勞働機關ノ經費ニ對スル日本ノ分擔金ハ一九三四年七月二十四日ノ余ノ書翰ニ於テハ該年度ニ付六十ノ單位ニ基キ(換言スレバ右ニ述ベシ期間ニ付テハ 60 - 13.9726 = 46.0274 單位ニ基キ)且七月二十四日國際聯盟加盟國ニ割當テラレタル單位總數即チ九五・一三八九〇三トノ割合ニ於テ算出セラレタルコトヲ示セリ。

然レドモ今ヤ聯盟ニ關係ナキ專ラ勞働機關ノミノ締盟國ヲ考慮シ勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ割當テラルル單位總數

ハ一一九・四一六四三ニ増加セリ。(因ニ國際聯盟ヘノ分擔金ノ單位數ハ一〇・一・三八九〇三ナリ)

右ノ單位總數ニ基キ日本ノ分擔金ハ左ノ如クシテ算出スベキナリ

$$\frac{46,0274}{1191,41643} \times \frac{8,686,046}{1} = 335,563 \text{ 金法}$$

(三)然レドモ日本ハ一〇・一・三八九〇三ノ單位ニ基キ一月一日ヨリ三月二十七日ニ至ル期間ニ付國際聯盟豫算ニ於ケル日本ノ分擔額(一一九、九九九・九五金法)ヲ支拂ヒタルガ其ノ分擔金ハ非聯盟國タル締盟國ヲモ含ム一切ノ國際勞働機關ノ締盟國ニ割當テラルル單位總數(一一九・四一六四三)ニ比例スベキモノトス。從ツテ此ノ爲日本ノ分擔金ハ減少スベキナリ。仍ツテ事務局ハ日本ノ分擔金ヲ日本ガ恰モ一月一日以降專ラ國際勞働機關ノミノ關係國ナルカノ如ク決定スベキモノト思考ス。即チ左ノ如シ

$$\frac{60}{1191,41643} \times \frac{8,686,046}{1} = 437,431.23 \text{ 金法}$$

右金額ヨリ事務局ハ既ニ一一九、九九九・九五金法ヲ控除セシヲ以テ日本ノ分擔金ハ三三五、五六三金法ヨリ三二七、四三二・二八金法ニ減少ス。

(四)國際勞働事務局職員ニ關スル役員恩給基金ニ對スル日本政府ノ分擔金モ又同一ノ方法ニ依リテ算出セラル。

國際勞働事務局職員ニ關シ一九三五年ニ於テ國際勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ依ル恩給基金ノ分擔金ハ、七七一・六四五金法ナリ。國際勞働機關ノ豫算ニ對スル日本ノ分擔金ニ關スル算出方法トシテ上ニ使用セラレタル公式ト同一ノ公式ヲ用フレバ一九三三年度ノ恩給基金ニ對スル日本ノ分擔金ハ三八、八六〇・二二金法トナル。此ノ金額中一〇六六〇・四七金法ハ一九三五年一月一日ヨリ三月二十七日ニ至ル期間ニ付テ國際聯盟ニ對シテ支拂ハレタル日本ノ分擔金ノ中ニ含マル。而シテ此等ノ二ノ金額ノ差額コソハ一九三五年ノ殘余ノ期間ニ付テノ恩給基金ノ分擔金トシテ日本政府ガ直接國際勞働事務局ニ對シテ支拂フヲ要スルモノナリ。

從ツテ國際勞働事務局ニ直接支拂フベキ金額ハ二八、一九九・七五金法ナリ。

(五)一九三五年三月二十八日ヨリ十二月三十一日ニ至ル期間ニ付テノ日本ノ分擔金ノ總額ハ結局左ノ如クナル。

國際勞働機關ノ豫算費…………… 317,431.28 金法

國際事務事務局職員ノ爲ノ恩給基金…28,199.75 金法
345,631.03 金法

(欄外記入)

三六年度分於少數點以下ハ當然變化ス

33 昭和10年5月20日

在オランダ武富公使より
広田外務大臣宛(電報)

各国によるハマーシヨルド推薦の動向につき
同氏との会談について

ハーグ 5月20日後発
本省 5月21日前着

第四〇號

壽府發貴大臣宛電報第六六號(一)ニ關シ

二十日「ハムマーシヨルド」ヲ往訪シ九月選舉ニ關スル
何等カノ情報アラハ内示ヲ受ケ度シト夫レトナシニ切出
シタルニ「ハ」ハ自分ハ最近壽府ニモ裁判所ノ所用ニテ
赴キタルカ同方面ノ空氣ハ日本側ニ對シ顯著ナル好轉ヲ示
シ居リ自分トシテハ長岡博士當選ノ豫想確實ナリトノ感想
ヲ得タリ尤モ露國候補ノ噂モ聞キタルカ此ノ關係ニテ最懸

念セラルル佛國側ヨリノ申出モナキ由ニテ或ハ今後政治的
ニ取扱ハルル可能性萬ナキヲ保シ難キモ夫レ以外ニハ此ノ
問題モ懸念ノ要ナカルヘシ又自分ノ名前モ數國ヨリ推薦セ
ラルル可能性アルヘク現ニ蘭國團ヨリ推薦シタルコトハ承
知シ居レルモ自分ハ承諾ヲ與ヘ居ラス蘭國團ト自分トノ關
係ニハ種々ノ經緯アリテ「ルーダー」翁ノ苦衷モ察セラル
ルニ付大勢ニモ影響ナキコト故餘リ氣ニセラレサル様希望
ニ堪ヘス何レニシテモ自分ノ考ハ日本候補ノ當選ヲ妨ケス
ト言フニ今日迄一貫シ來リ居リ現ニ曩ニ米國側ノ申出モ斷
リ支那側ヨリ第二候補トシテノ申出ニモ三月貴官ニ語リタ
ルト同様ノコトヲ告ケ瑞典側ニハ過般在蘭瑞典公使一時歸
國ノ際明白ニ傳言ヲ依頼シアルニ付自分ノ意嚮ハ同公使ニ
問合ハササルモ可ナリ且今後假ニ數國ヨリ自分ノ承諾ナシ
ニ推薦アリテモ九月選舉前數日トナレハ必ス自分ノ名前ハ
withdrawサルコトハ確實ナルニ付氣ニ懸ケラレサル様
希望ス但シ爲念附言シ置キ度キハ選舉前ノ形勢カ露國候補
ノ競争等アリテ長岡博士カ萬一多數ノ得票ヲ得ラルル見込
ナク折角選舉アリテモ南米邊リノ候補以外ニ安達裁判官ノ
後任ヲ得難キ形勢トモナレハ本意不本意ニ拘ラス自分モ裁

判官ニ對スル義務觀念ヨリ withdraw シ難キコトトナルヘ
シ併シ右ハ今日ノ情勢ヨリセハ假定ノ場合ニテ左様ノコト
ハ起リサウモナシ云々ト内話シタリ
壽府、瑞典ヘ轉電シ在歐洲各大使ヘ暗送セリ

~~~~~

34 昭和10年5月24日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代  
理兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

連盟理事会が阿片諮問委員会への日本招請を  
決議について

ジュネーブ 5月24日後発  
本省 5月24日後着

第七七號  
往電第七四號ニ關シ

事務總長ヨリ二十三日附閣下宛書翰ヲ以テ  
阿片諮問委員會ハ五月二十日其ノ第十二回會期ノ第一回  
會合ニ於テ日本ノ聯盟脫退ノ結果日本政府カ同委員會ニ  
代表セラルルコト無キニ至レル事實ヲ諒承シ同委員會ニ  
於ケル日本ノ Continued representation ヲ確保スヘク必  
要ナル手續ヲ採ル様理事会ニ要請スルコトヲ決議セリ聯盟

理事會ハ五月二十三日ノ會合(第八十六回會期)ニ於テ諮  
問委員會ノ右要請ニ give effect スルニ決セリ、On behalf  
of the Council, I, therefore, have the honour to invite  
your government to continue to be represented on the  
Opium Advisory Committee.

ト申越アリタリ

英、佛、伊ヘ暗送セリ

~~~~~

35 昭和10年5月27日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代
理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

中国による連盟理事席新設要求および本件の
理事会における討議状況について

別電

五月二十七日発在ジュネーブ横山國際會議事務
局長代理兼総領事より広田外務大臣宛第八一號
右理事会における討議状況について

ジュネーブ 5月27日後発
本省 5月28日前着

第八〇號(極秘)

原田カ例ノ筋ヨリ得タル極秘情報左ノ通

五月廿日胡世澤ハ事務總長ニ對シ大要左ノ如キ郭泰祺ノ書翰ヲ手交セリ

(欄外記入)

「昨秋支那カ理事席ヲ失ヒ今春日本ノ脱退完了セル以來理事會ト極東トハ絶縁狀態ニ陥リタリ然ルニ右ハ聯盟ノ普遍性ニ反シ殊ニ極東ノ一角ニ東洋ヲ聯盟ヨリ分離セシメントスル傾向相當有力トナリツツアル折柄聯盟ノ爲ニ最モ悲ムヘキ現象ト謂フヘシ又理事會ノ構成ハ由來公正ナル地理的分配ヲ基準トスヘキモノナルニ其ノ現狀ハ之ニ反シ就中南米ノ代表者不當ニ多數ナルカ如シ而シテ支那年來ノ國是カ國際協力ニ存スルハ聯盟ノ對支援助事業ニ對スル誠意ニ徴スルモ明白ナリ以上ノ理由ニ基キ支那政府ハ支那ノ爲ニ理事席新設ヲ要求ス」云々

右書翰ハ行文拙劣ヲ極メ内容モ頗ル非外交的ナリトノ非難事務局内ニ專ラナリシヲ傳聞シ大イニ狼狽セル胡世澤ハ直ニ之ヲ撤回スルト同時ニ態々郭泰祺ヲ倫敦ヨリ招キ協議ノ上極東ノ一角云々及南米代表云々等ノ不評判ノ文句ヲ削除セル新書翰ヲ作成シ廿二日午後郭ヨリ之ヲ理事會議長ニ直接手交セシメ且各國理事ニ對シ極力運動ヲ行ヒタリ其ノ結果理事會ハ廿五日午後公開會議終了後引續キ秘密會ヲ開キ

千九百三十六年度總會ニ於テ再審議ヲ爲スコトナリ居ル旨(千九百三十二年總會決議參照)ヲ注意シ濠洲モ右根本問題未解決ノ儘本件ノミヲ審議シ得スト述ヘ右ニ關シ種々意見ノ交換アリタル後結局本件ハ次回通常理事會ニ正式上程ノ上特別委員會ニ附託研究セシムヘキ旨並ニ夫レ迄ニ事務局ヲシテ之カ諸準備ヲ遂ケシメ置クコトニ打合ヲ了セリ尙右秘密會ハ理事會終了後ノコトニテモアリ佛、英、波、濠、致等ノ正理事出席セス「イーデン」ノ如キハ本件ハ解決至難ナリト言ヒ殘シ中座セル程ナルカ例ノ筋ノ印象ニ依レハ大勢ハ主義上支那ノ要求ヲ容レ理事席新設ニ同意セントスルモノノ如シトノコトナリ

本件情報一切取扱特ニ注意ヲ請フ

在歐洲各大使(土ヲ除ク)米へ暗送セリ

昭和10年6月20日

社会局労働部勞務課長より
坂本瑞男(外務省条約局第三課長宛)

昭和十一年度の日本の国際労働機関に対する

分担金について

昭和十年六月二十日

(接受日不明)

本件ヲ審議セルカ其ノ經過大要別電第八一號ノ通ナリシ由ナリ

在歐各大使(土ヲ除ク)、米へ暗送セリ

(欄外記入)

本件ハ日本ノ意向ヲ決定シ理事國及支那ニ通告セシメテハ如何一部ノ策動カモ知レズ

(別電)

ジュネーブ 5月27日後発

本省 5月28日前着

第八一號(極秘)

往電第八〇號ニ關シ

二十五日理事會秘密會議ニ於テ最積極的ニ支那ノ要求ヲ支持セルハ伊國代表ニシテ彼ハ劈頭發言シ日本脱退後是非共東洋ノ一國ヲ理事會ニ有スルノ必要ヲ力説シ本問題ヲ研究スル爲ニ委員會設置ノ要アルヲ主張セリ佛國代表之ニ贊意ヲ表シ次テ葡、智利、土、亞、丁抹ノ諸國モ主義上之ニ同意ヲ表シタルカ英國代表ハ理事會構成ニ關スル根本問題ハ

社会局労働部 勞務課長(印)

外務省條約局

坂本第三課長殿

電話ニテ御照會ノ明年度勞働機關本邦分擔金ノ件ハ當方ノ資料ニテ調査シタル處別紙ノ通ニ有之候條御了知相成度右得貴意候

(別紙)

昭和十一年度勞働機關本邦分擔金ニ關スル件

一九三六年勞働機關豫算中本邦ノ支拂フヘキ分擔金ハ四六八、四七四法五五ト思料ス

其ノ理由次ノ如シ

第七十回勞働理事會ニ豫算委員會ノ提出シタル一九三六年豫算ハ「一〇、八五一、〇九三」法ニシテ其ノ内ヨリ控除スヘキモノトシテ雜收入一五八、四九三法國國際聯盟非加盟國ノ釀出金三、二一七、〇五七法ヲ掲ケ其ノ内ニ本邦分擔金八七五、五二二法ヲ計上セリ

蓋シ右「八七五、五二二」法ハ一九三五、三六兩年ノ本邦釀出金ヲ計上セルモノニシテ一九三五年ニ於テ本邦カ支

(欄外記入)

拂フ分擔金ハ聯盟財政管理規則舊規定二十二條第二項ニ依リ收入ノ翌年タル一九三六年豫算ニ計上スルコトナリ本來ナレハ一九三六年分擔金ハ一九三七年豫算控除ノ部ニ計上セラルヘキ筈ノ處別紙ノ通財政規則改正ノ結果一九三六年分擔金モ當該年度ニ計上スルコトナリタルヲ以テ一九三六年ニ於テ支拂フヘキ分擔金ハ八七五、五二二法ヨリ一九三五年ニ支拂フヘキ四三七、四三一法ヲ(一月ヨリ三月二十八日迄ノ分ヲ含ム)ヲ控除シタル額即四三八、〇九〇法七七ナルベシ

右ノ外恩給基金分擔金トシテ右豫算書ハ六九、二四四法ヲ掲クルモ之モ右同様ノ理由ニ依リ本年支拂フヘキ三八、八六〇法二ニヲ控除シタル殘額三〇、三八三法七八ヲ一九三六年ニ於テ支拂フコトナルヘシ

因テ明年本邦ノ支拂フヘキ總額ハ合計四六八、四七四法五五(邦貨換算純分比價一八一、二九九圓六五錢)トナルヘシ

財政規則第二十二條ノ改正案

一九三五年一月ノ理事會ハ國際聯盟ノ聯盟國ニ非サル國際

年度中ニ使用セラルルモ自治機關ノミノ締盟國タル國ノ分擔金ハ之ヲ採決シタル年度トハ異レル年度ノ豫算面ニ收入トシテ計上セラルルコト

(三)分擔金カ受領セラルル迄ハ計上セラレサルトキハ自治機關ノ經費ヲ一切ノ締盟國ニ正確且平等ニ割當ツルコトヲ得サルコト

(四)一國カ國際聯盟ヨリ脫退シ且自治機關ノ締盟國トシテ殘ルトキハ現在ノ分擔金ニ關スル二重制度ハ稍々珍奇ノモノトナリ其ノ分擔金中國國際聯盟ニ屬スル部分ハ猶ホ豫メ豫算面ニ計上セラルルニ自治機關ニ屬スル部分ハ現實ニ之ヲ受領スル迄計上セラレサルコト

(五)最後ニ受領後ニ於テノミ分擔金ヲ計上スル制度ニハ必理上ノ弊害アリ一國ニシテ當該年度ノ分擔金カ翌年度迄使用セラレサルモノト思惟セハ其ノ分擔金ノ支拂ヲ延ハス傾向アルコト

(欄外記入)

三月末迄ノ本邦分擔金ハ聯盟國トシテ聯盟ニ支拂ヒタルモノノ一部ヲ聯盟ヨリ勞働ヘ融通シタルモノナルニ付其ノ分ヲ含ミテ

勞働機關ノ締盟國ノ分擔金ニ付從來ノ如ク之ヲ受領シタル後ニ豫算面ニ計上セスシテ當該豫算面ニ豫メ計上シ置クコトヲ得シムル様財政規則第二十二條ヲ改正スヘキコトヲ監理委員會ニ提案セルカ監理委員會ニ於テハ原則トシテ右改正案ヲ承認シ唯タ其ノ字句ニ付テノ最終決定ハ一九三五年五月ノ會議迄延期スルコトセリ

理事會カ右ノ改正案ヲ提出シタル理由ハ從來ノ如ク二重制度即チ國際聯盟ノ聯盟國ニシテ同時ニ國際勞働機關ノ締盟國タル國ノ分擔金ニ付テハ豫メ豫算面ニ計上シ自治機關ノミノ締盟國タル國ノ分擔金ニ付テハ之ヲ徵收スル迄豫算面ニ計上セサルモノトセハ極メテ不都合ナリト云フニ在リ而シテ其ノ不都合トスル點ハ左ノ如シ

(一)現在ニ於テハ締盟國ハ其ノ分擔金カ適法ニ支拂ハルヘキ安全ナル請求權ノ對象トシテ認メラルルカ又ハ右分擔金カ現實ニ支拂ハルル迄豫算面ニ計上セラレサル比較的曖昧ナル負債トシテ認メラルルカニ從ヒ之ヲ二種ニ分類シ得ルモ財政規則ニ依リ爲サル右ノ區別ハ避クルコトヲ得ハ避クルヲ可トスル解釋ヲ許スコト

(二)國際聯盟ノ聯盟國タル國ニ付テハ分擔金ハ其ノ支拂ヘル

二年分ヨリ控除スルハアタラザルベシ

37 昭和10年7月26日

重光外務次官より
津島(寿二)大藏次官他宛

シリアにおける邦品に対する現行關稅制度の
更なる継続について

付記 八月二十六日付鮭延(信道)委任統治委員會委員

作成

「第二十七回委任統治委員會ニ於ケル通商均等待
遇問題ニ關スル件」

通一普通合第三〇八四號

昭和十年七月二十六日

外務次官 重光 葵

大藏次官 津島 壽一殿
商工次官 吉野 信次殿
農林次官 長瀬 貞一殿
拓務次官 入江 海平殿
逓信次官 秦 豐助殿

「シリヤ」ニ於ケル邦品ニ對スル現行關稅制度繼

續方ニ關スル件

本件ニ關シ客月二十九日附通一普通合第二七五〇號拙信ヲ以テ申進メ置キタル處今般在佛佐藤大使ヨリ「シリヤ」及「レバノン」高級委員ハ同地域ニ輸入セラルル本邦品ニ對スル現行關稅制度ヲ日佛間ニ新協定成立ニ至ル迄七月二十七日以降一箇月間宛延長スルニ決定シタル旨電報アリタルニ付此段申進ス

本信送付先 大藏、商工、農林、拓務及遞信各次官

(付記)

第二十七回委任統治委員會ニ於ケル通商均等待遇問題ニ關スル件

昭和十年八月廿六日

鮭延委任統治委員會委員手記

一九三五年六月開會ノ委任統治委員會ニ於テ白國委員オルツ、パレスティン、タンカニカ及シリアノ各年報審査ニ當リ同氏擔任ノ質問事項(委員會ニテハ前以テ質問事項ヲ定メ各委員ニ割當テ居レリ)、「經濟平等ノ原則」ノ項下ニ於テ英佛代表者ニ對シ今回聯盟ヲ離脫シタル日本ノ商品ニ

對シ前記諸地方ニ於テ引續キ聯盟加盟國ノ商品ニ對スルト同等ノ待遇ヲ與ヘ居レルヤ否ヤヲ質問シタリ

余ハ當時十分質問者ノ眞意ヲ了解セサリシモ事一委員ノ質問ニ止マリ各委員ハ各其好ムトコロニ從ヒ自由ニ質問シ又意見ヲ述フルコトヲ許サレ居ル次第ナルヲ以テ前掲質問ニハ別段意見ヲ留メサリシガ委員會モ終期ニ近ツキ理事會ニ提出スヘキ年報審査報告書ヲ作成スル際右オルツ委員ノ質問ハ委員會全部ノ意見トシテ「經濟平等ノ原則」ノ項下ニ聯盟ヲ離脫シタル國ノ商品ニ對シ統治國ハ依然聯盟國ノ商品ニ對スルト同等ノ待遇ヲ與ヘ居ルハ如何ナル理由ニ基ツクヤ承知シ度旨ヲ理事會ニ上申スルノ意向ヲ以テ報告書原案中ニ提議セラレタリ右原案ハ委員會ガ聯盟ヲ離脫シタル國ニ對シテハ平等待遇ヲ與フベカラズトノ見解ヲ存スルモノナルカノ如クニ認メラレタリ仍テ余ハ委任條項ニ規定スル均等待遇ノ原則、聯盟内ノ諸國ニ對シテ均等待遇ヲ與フルノ義務ヲ統治國ニ負ハシメタルモノニテ聯盟外ノ諸國ニ對シ如何ナル待遇ヲ與フヘシ又與フ可ラズトハ委任條項ノ何處ニモ規定シ居ラサル旨ヲ指摘シ例ヘハ日本ガ聯盟ヲ離脫シタリトテ非聯盟國ニ平等待遇ヲ與フベカラズトノ規定ナ

キ故若シ日本商品ガ引續キ從來ト同様ノ取扱ヲ受クレバトテコハ委任條項ニ所謂平等待遇ニハアラズ何トナレバ此際日本ハ右條項ヲ援用シテ平等待遇ヲ要求スルノ地位ニ在ラサレバナリ、從テ如此同等ノ待遇ハ日本ト各委任地域トノ特別ナル經濟上通商上乃至政治上其他各般ノ事情ヲ斟酌考量シテ双方間ニ協定セラレタルモノ即チデファクトノ關係ト見ルベキモノナリ

要スルニ聯盟外ノ諸國ノ商品ノ取扱ニ付キ統治國ハ自由ノ立場ニ在リト云フベク從テ委員會ガ聯盟脫退國ノ商品ノ取扱振ヲ承知セントスルコトハ單純ナル事實ヲ知ラントスルノ外何等意味ナキモノナリ而カモ如此質問ハ恰モ委員會ガ聯盟外ノ諸國ニ對シテハ平等待遇ヲ拒否スヘシトノ意見ヲ懷持ストノ疑惑ヲ誘致スルノ虞アリ

ト述べ本案ノ撤回方ヲ主張シタル次第ナルガ幸ニシテオルツ委員ヲ初メ多數委員ハ余ノ論旨ヲ了解シ本件ハ何等經濟平等ノ原則ト關係ナキモノナルコトヲ了得シタルヲ以テ余ハ強イテ本案全部ノ撤回ヲ固執セズ而シテ理事會ヘノ報告書ニハ之ヲ「エガリテエコノミック」ノ項下ヨリ引離シテ「レヂームエコノミック」ノ項下ニ於テ本文ヲモ改訂シテ「聯

盟ヲ離脫シタル國ノ商品ニ對シテ聯盟加盟國ノ商品ト同等ノ待遇ヲ與フルノ理由ヲ承知シ度」云々トナスコトニ折合セタリ

以上ノ如クニテオルツ委員當初ノ意見ハ兎毛角、委員會トシテハ右質問事項ハ委任條項中ノ均等待遇ノ規定トハ何等關係ナキモノトノ見解ヲ執リタルモノナルコトヲ御承知アリ度シ

以上

38 昭和10年8月6日

在ベルギー有田(八郎)大使より
広田外務大臣宛

第三十一回万国議院同盟會議における討議に

ついて

普通第二一九号

(8月28日接受)

昭和十年八月六日

在 白

特命全權大使 有田 八郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

第三十一回万国議院同盟會議ニ關スル件

「第三十一回万国議院同盟會議ハ七月二十六日より三十一日迄「ブラッセル」(會場白國上院)ニ於テ開催セラレタル処參加國二十ヶ國(東洋ヨリハ日本、米大陸ヨリハ加奈陀ノミ)本邦ヨリノ参列者ハ左ノ通

貴族院 田中館博士

衆議院 星島 二郎(政) 團長

永田 良吉(政)

岡田 伊太郎(政)

岡田 忠彦(政)

佐藤 庄太郎(政)

西澤 哲四郎 衆議院書記官

三會議ハ「カルトン・ド・ヴァール」伯(白國下院議員、元首相、元大臣)議長ノ下ニ、國際法編纂問題、ニ中立及被侵略國援助問題、三、武器製造運搬取締問題、四、世界經濟連帶問題、五、通貨安定問題、六、議會制度進化問題ニ關スル決議ヲ採擇セリ本邦議員團ヨリハ田中館博士世界經濟連帶問題ニ關シ又星島代議士ハ議會制度進化問題ニ關シ演説ヲ爲シタリ尚中立及被侵略國援助問題ニ關シテハ田中館博士ハ日本議員團ヲ代表シ「本問題ハ重大ナルヲ以テ各般ノ関

係ヲ慎重考慮スルニ非レハ決定スルコト能ハス」トノ理由ヲ述ヘ意見ヲ留保セリ英國、伊國、洪國モ畧々同様ノ態度ニ出テタリ又世界經濟連帶ニ付テ佛國議員團ヨリ「賃銀、衛生及労働時間ノ惡條件ノ下ニ製造セラレタル商品ノ輸入ヲ防止スヘシ」トノ意味ノ一句ヲ決議中ニ挿入セントノ提案アリタルカ之ヨリ先或議員カ演説中ニ「日本、独逸ノ「ダンピング」云々」ト云ヘル経緯モアリタルヲ以テ田中館博士登壇シ「日本議員團ハ佛國案ニ賛成ナリ日本ニ於ケル労働條件ニ付テハ國際労働局「モレーット」氏ノ研究ヲ御一讀アラシコトヲ諸君ニ御勸メス日本議員團ハ國際通商力改善セラレ關稅障壁ノ如キモ撤廃サル、ニ至ランコトヲ希望ス」ト述ヘタリ

三星島代議士ハ前記演説ノ終リニ於テ一九三八年ニハ日本議會ハ五十週年ヲ紀念スヘキニ付其際東京ニ於テ議院同盟會議ヲ開カレ度ト述ヘタルニ議長ハ遙カニ多數ノ議員ヲ會議ニ送ラレタルコト及東京ニ會議開催方ノ招請ヲ謝シタル上開催地ノ決定ハ理事會ノ權限ナル处理事會ハ日本ノ招請ヲ好意ヲ以テ考慮スルコトナルヘシト述ヘ一同拍手ヲ以テ之ヲ迎ヘタリ同時ニ日本議員團ハ守衛ヲシテ新議事堂ノ繪

葉書ヲ會議出席者ニ配布セシメタルニ一同喜ヒ「東京會議ニハ是非赴キタシ」トテ日本議員團ニ握手ニ來ル者又ハ右繪葉書ニ署名ヲ求メニ來ル代表モアリタリ
四 右ノ次第二テ日本議員團ノ参列ハ日本ニ對スル誤解ヲ是正シ進ンテ日本ヲ理解セシムルニ效果アリタリト云フヘク又日本議員團ハ規則正シク連日ノ會議及招待ニ出席スル等其行動ニ規律アリ当館トノ連絡協調モ十分ニシテ寸毫ノ行違モ生セサリシハ特筆スルニ足ル次第ト存セラル此点兩院議長ニモ可然御傳ヘ相成度

右報告ス

39

昭和10年8月15日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本の連盟脱退後のパレスチナおよびシリア
における經濟上の均等待遇に関する委任統治
委員会における討議について

第一一九號

ジュネーブ 8月15日後発
本 省 8月16日前着

(欄外記入)

第二六月五日委任統治委員會ノ「パレスタイン」年報審查ニ際シO.H.委員ヨリ日本ハ聯盟脱退後「パレスタイン」ニ於テ經濟上均等待遇ヲ享有シ居レリヤノ質問アリ英代表之ヲ肯定セルカ更ニO.H.委員ヨリ右待遇ハ委任統治地域ノ爲ニ採用セラレタリヤ夫レ共他ノ理由ニ基クモノナリヤトノ反問アリ英代表ハ即答ヲ避ケ追テ調査ノ上返答スヘシト述フ

第三翌六日英代表ハ前日ノ質問ニ對シ「今日迄ノ所事態ニ何等變化無シ將來執ラルヘキ措置ニ關スル英國政府ノ見解又ハ意思ニ付テハ何モ承知セス尤モ一九一一年日英通商條約ノ存在スル結果日本ノ聯盟脱退ニ伴ヒ「パレスタイン」カ自動的二日本商品ノ待遇ニ關シ行動ノ自由ヲ恢復スルモノニアラサルコトニ留意スルヲ要ス」ト答ヘ之ニ對シO.H.委員ハ日英條約アルニ拘ラス輸入割當制度ノ如キ措置ハ英領植民地殊ニ東部阿弗利加ニ於テ採用セラレタリ日英條約ハ「パレスタイン」ニ於テ此ノ種ノ手段ヲ採用セントスル場合之ヲ妨クルモノニアラスト思ハルト述ヘ英代表ハ余ハ日英條約カ此ノ種手段ノ採用ヲ妨クルモノナリト言ヘルニアラス日本ノ脱退ニ伴ヒ「パレスタイン」カ自動的二行動

ノ自由ヲ恢復スルモノニアラスト言ヘルナリト陳辯ス
 第三七日「シリヤ」年報審査ニ際シOrs委員ヨリ日本ハ
 三月二十七日聯盟ヲ脱退セルニ依リ同日後經濟上均等待
 遇ノ權利ヲ喪失シタリ然ルニ本年四月Correspondance
 d'Orient 第四四八號ニ依レハ「シリヤ」ノ特惠關稅待遇
 ハ二箇月間日本ノ爲延長セラレタルモノノ如シ事ノ真相如
 何トノ質問アリ佛代表ハ本件ハ日本ニ關シ恢復セラレタル
 行動ノ自由ヲ利用シ日本ヲシテ同國カ「シリヤ」ニ賣込ム
 モノニ相應スル買入ヲ同地域ニテ爲サシメントシ居ルモノ
 ナリ日本ノ「シリヤ」ニ對スル輸出ハ云フニ足ラサルモノ
 ナリシカ今ヤ日本ハ躍進シテ「シリヤ」ニ對スル輸出國ト
 シテ第二位ヲ占ムルニ至レリ日本ハ織物ニ付テ競爭國全部
 ヲ驅逐セルノミナラス「シリヤ」ノ織物業ヲモ危殆ニ瀕セ
 シメツツアリ之ニ反シ日本ノ同地域ヨリノ買入ハ皆無ニ近
 シ此ノ事態ハ此ノ儘永續セシムルヲ得ス同地域ノ市場力日
 本ニ開放セラルル限り日本ハ同地域產出ノ棉花ノ購入ニ依
 リ同市場ノ顧客トナルコト肝要ナリ從ツテ問題ノ解決ハ割
 當制度類似ノ制度ノ適用ニアルヘシト答フ
 第四「パレスティン」及「シリヤ」ニ關スル委任統治委員

日本の連盟脱退後の委任統治地域における經 済上の均等待遇に関する委員会報告への対応 につき請訓

別電

九月六日発在ジュネーブ横山國際會議事務局長
 代理兼總領事より広田外務大臣宛第一二七号

連盟脱退後の委任統治地域における通商均等待
 遇に関する我が方説明を次回委員会で行うよう

ジュネーブ 9月6日前発
 本省 9月6日前着

第一二六號（至急、極秘）

貴電第七二號ニ關シ（聯盟委任統治委員會ニ於ケル邦品待
 遇ニ關スル「オプザーベーション」ノ件）

事務總長ハ目下伊「エ」紛爭問題ニテ手一杯ノ爲不取敢
 委任統治部長「カラスツチニ」ニ面會シ貴電ノ御趣旨ヲ懇
 切ニ説明シ之カ善後措置ニ關シ意見ヲ交換セル處同部長ハ
 全ク個人的資格ニテ腹藏無ク御話スヘシト前提シ既ニ印刷
 配布濟ノ議事録及報告書ヲ今更修正スル如キハ事務局ノ關
 スル限り實際上不可能ナルカ理事會ニ對スル報告擔任者致

會ノ「オヴザーベーション」中本件ニ關スルモノ左ノ通
 委員會ハ聯盟國タルコトヲ止メタル國ノ生産品ノ輸入カ聯
 盟國ノ生産品ノ輸入ト均等ノ地位ニ於テ認メラレ居ルコト
 ヲ聞知シタリ委員會ハ其ノ理由ヲ承知シ度シ

第五本件ニ關シ十五日Nations 紙ハ英代表ハ直接質問ニ答
 フルコトヲ避ケタルモ佛代表ハ日本カ最早均等待遇ノ權利
 ヲ享有セサルコトヲ明言セリ委任統治委員會報告ノ採レル
 慎重ナル形式ハ委員會ノ意見モ亦否定的ナルヘキコトヲ示
 シテ餘アリ問題ノ解決カ否定的ナルヘキコト疑ノ餘地ナシ
 獨逸脱退ノ確定的トナル曉問題ハ更ニ重大化スヘシト論評
 ス

英、佛、獨へ郵送セリ

（欄外記入）

聯盟ニ日本ノ主張ヲ表示シ置ク必要ナキヤ 聯盟ノ態度如何ニ
 ヨリテハ日本ノ南洋統治ニ反映スルコトナキヲ保セサルヘシ

40 昭和10年9月6日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代
 理兼總領事より
 広田外務大臣宛（電報）

國理事ノ報告案中ニハ本件ニ關シ何等直接ノ記載無ク唯其
 ノ結論タル理事會決議案ノ第三點ニ於テ「理事會ハ今次委
 員會カ統治年報ヲ審査セル各地域ノ行政ニ關スル同委員會
 ノ各注意事項ヲ夫々當該統治國政府ニ傳達シ委員會ノ要求
 ニ donner suite スル様要請スヘキコトヲ事務總長ニ命ス」
 ト掲記セルニ止マレルヲ以テ右概括的決議事項中ヨリ本件
 事項ノミヲ除外セシメントセハ此ノ際
 理事會ノ決議前ニ日本側ヨリ何等カ正式ノ手續ヲ執ラルル
 ノ要アルヘク事務局トシテハ書面ニ依ル公式申入アラハ理
 事會議長ニ之ヲ傳達スヘキハ勿論ナルモ此ノ方法モ實際手
 續上非常ナル面倒ヲ生シ成否ヲ請合ヒ難シト語レリ
 依テ此ノ際御訓電ノ目的ヲ徹底のニ達成セントセハ
 (一)我方ノ主張ヲ書面ニテ事務總長ニ申入レ之ヲ理事會議長
 ニ傳達セシムルカ
 (二)報告擔任者致國理事ニ事情ヲ懇説シ何等カノ便法ヲ講セ
 ンコトヲ求ムルカ
 ノ何レカニ依ルノ外無キ處右ハ何レモ實行上非常ナル困難
 アリ殊ニ致國理事カ本件幹旋ヲ受諾スル場合ニモ我方代表
 者ノ出席セサル理事會ヲシテ我方ノ主張ヲ充分ニ了解セシ

ムルコトハ殆ト不可能ト存セラル
就テハ別電第一二七號ノ件ト併セ至急何分ノ御詮議ヲ願度
ク理事會ニ於ケル本件審議期日モ一兩日ニ差迫リ居ル折柄
結果折返シ御回電ヲ請フ
本件局長ト協議済

(別電)

ジュネーブ 9月6日前発
本 省 9月6日後着

第二二七號(至急、極秘)

往電第一二六號ニ關シ

(一)委任統治部長ハ尙左ノ通り語レリ

「日本側ノ主張ハ政治的大局的ノ見地ヨリ聯盟ニ對シ效果
的ナル論據ヲ含ミ居リ理事會ノ考量ヲ促ス上ニハ有力ナル
モ理事會ニ代表者ヲ有セサル今日之力徹底ヲ期スルコト困
難ナルハ遺憾ナルカ幸ニモ本年十月ノ委員會ニ於テ日本年
報審査ニ際シ日本代表出席ノ機會アルヲ以テ其ノ際同代表
ヲシテ只今御説明ノ通り逐一論述セシメラルコト最モ有
利ナラン右實行御決定ノ場合ニハ豫メ通報アリ次第自分ハ

ジュネーブ 9月13日後発
本 省 9月14日前着

第一四三號(極秘)

往電第八一號ニ關シ

聞込ニ依レハ支那ノ理事席獲得ノ要望ニ關シ事務總長ハ五
月廿五日理事會秘密會ノ決議ニ基キ右希望ハ理事席ヲ増設
スルカ或ハ改選ノ際支那ヲ選舉スルコトニ依リ達セラルヘ
キ處何レニセヨ理事會(全會一致)及總會(過半数)ノ決
議ニ依リ如何様ニモ決定スルヲ得ヘシトノ趣旨ノ議事手續
ニ關スル簡單ナル覺書ヲ作成セル由ニテ本件ハ十三日午後
ノ理事會ニ上程セラルヘキ趣ナリ理事會ニ於テハ恐ラク反
對ナカルヘク其ノ上ハ總會ヨリ第一委員會ニ附託ノ運トナ
ルヘシ

在歐各大使(土ヲ除ク)ヘ暗送セリ

42 昭和10年9月14日

在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

理事会および総会が安達の後任として長岡を選出に
ついで

議長ト連絡ヲ執リ日本年報審査ノ前後適當ノ機會ニ本件ニ
關スル日本代表ノ發言ヲ求メシムル様致スヘシ」云々

(二)惟フニ前掲電稟ノ二方法ハ實行上困難多キニ顧ミ不適當
ト認メラルル場合ニハ本件質問事項ハ今次理事會ノ概括的
決議ヲ經テ英佛兩政府ニ傳達セラレ來年五月ノ委員會迄ニ
兩政府ノ回答ヲ見ル順序トナルヲ以テ右兩政府ニ對シ重ネ
テ我方ノ主張ヲ懇説セラレ其ノ回答振ニ付然ルヘク御交渉
相成ルコトモ有益ナランカ右兩政府共我方トハ通商上競争
關係ニアル以上假令主義上ニテモ我方希望通りノ回答ヲ爲
スニ至ルヘキヤ頗ル疑問ナルニ付此ノ際唯一ノ善後策ハ畢
竟右部長ノ意見通り次回委員會ニ於テ直接説明ヲ行ヒ其ノ
反省ヲ促スニアリト存セラル

本電堀田、伊藤兩公使ト協議済

前電ト共二英、佛ヘ暗送ス

41 昭和10年9月13日

在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

中国の新理事席要求問題の進捗状況について

ジュネーブ 9月14日前発
本 省 9月14日後着

第一五〇號(至急)

十四日理事會及總會ハ安達判事ノ後任トシテ長岡大使ヲ選
舉セリ因ニ總會ノ票決左ノ通

投票總數五一、長岡大使三五、「ハーマーシヨット」八、
其ノ他八

在歐米各大公使ヘ郵送セリ

43 昭和10年9月14日

在ジュネーブ横山国際会議事務局長代
理兼総領事より
広田外務大臣宛(電報)

長岡当選に際しての投票内分けについて

ジュネーブ 9月14日後発
本 省 9月15日前着

第一五一號

往電第一五〇號ニ關シ

長岡博士ノ總會ニ於ケル得票三十五票ノ内亞爾然丁、澳太
利、白、英、勃、智利、哥倫比亞、玖馬、西、「エストニヤ」、
「エチオピア」、芬蘭、佛、希臘、「ホンジュラス」、匈牙利、

「イラン」、伊國、「リスニア」、「ルクセンブルグ」、墨西哥、巴奈馬、秘露、波蘭、葡萄牙、羅馬尼、暹羅、瑞西、致國、「ウルグアイ」及「ユーゴスラビヤ」ノ三十一箇國ハ本官等ニ於テ確實ト認メ得ル事情アリ他ノ四票ハ多分「アルバニヤ」、濠洲、加奈陀、支那、「ハイチ」ノ五國中ヨリナラント思ハル

「ハンマーシヨット」ノ八票ハ南阿、支那（或ハ濠洲）、丁抹、諾威、新西蘭、和蘭、瑞典、蘇聯カト推測セラレ其ノ他ハ阿富汗及土耳其カ「ビルセル」ニ「リベリヤ」、「ニカラガ」、「ベネゼラ」カ「ベネゼラ」人ニ、「ラトビヤ」、愛蘭、印度カ夫々自國人ニ投票セルモノノ如シ

「ポリビヤ」（日本ニ投票ノ答ナリシカ遅刻）、「トミニカン」、「エクアドル」、「ガテマラ」、「イラク」、「パラガイ」、「サルバドル」ハ缺席セリ

尙理事會ニ於ケル得票ノ内譯ハ公表サレサルモ長岡博士十一票、「ハンマーシヨット」三票ナリシ旨内報アリ後者ハ多分丁抹、蘇聯及土耳其ノ三國ナラント推定セラル
在歐各大公使へ暗送セリ

タルモノナルコトヲ答辯セルモ委員會ハ右答辯ヲ以テ不充分トシ更ニ詳細ナル説明ヲ日本政府ニ要求シタリ余モ亦日本代表ノ答辯ヲ以テ不充分ナリト思考ス日本政府力約束ニ從ヒ納得ノ行クカ如キ詳細ナル説明ヲ與ヘンコトヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ他ノ發言者ニシテ前記兩問題ニ觸レタルモノナシ第六委員會ハ諾威代表ヲ本問題ノ報告者ニ指名シタリ
在歐各大使、波蘭へ郵送セリ

45 昭和10年9月19日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
広田外務大臣宛（電報）

中国の理事新設要求に係る理事増員問題の理事会審議状況について

ジュネーブ 9月19日前発
本省 9月19日後着

第一六三號（極秘）

往電第一四九號ニ關シ
十三日理事會秘密會ノ經過ニ關シ例ノ筋ヨリノ内報左ノ如シ

44 昭和10年9月18日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
広田外務大臣宛（電報）

連盟總會第六委員會においてノルウェー代表が脱退後の日本商品のC式委任統治地域における均等待遇および南洋群島港灣修築問題に言及について

ジュネーブ 9月18日後発
本省 9月19日前着

第一六〇號

十八日午前第六委員會ハ委任統治問題ヲ審議セルカ諾威代表 Lange ハ第二十七回委任統治委員會ノ事業ヲ紹介セル演說中委任統治地域ニ於ケル經濟上ノ均等待遇ノ原則ニ關シ「パレスタイン」及「タンガニカ」ニテ（「シリー」ニ言及セス）聯盟脱退國即チ日本ノ商品ニ對スル右原則ノ適用問題發生セリ本問題ハ目下委員會ニテ研究中ナリ委員會カ如何ナル結論ニ達スルヤ興味ヲ以テ待ツモノナル旨ヲ述ヘ又其ノ演說ノ最後ニ南洋群島ノ港灣修築問題ニ言及シ統治國代表ノ出席セサル議場ニ於テ本問題ニ觸ルハ遺憾ナレトモ本問題ハ重大ニシテ默過スルヲ得ス日本代表ハ委任統治委員會ニ對シ本件港灣修築力全然非軍事的目的ヨリ出テ

先ツ事務總長ヨリ理事増員ノ場合ハ任期一年、二年若ハ三年ノ理事席ヲ増設スル三個ノ案ヲ考慮シ得ヘキ處昨年任期満了セル支那力選ハルル爲ニハ先ツ再選資格ヲ附與セラルコトヲ要スト述ヘ土國ハ自國ノ利害關係上任期一年案ニ賛成シ（同國ノ任期ハ二年後終了）佛、英、西等ハ理事増員ハ非理事國ニ於テ歡迎スル所ナランモ豫テ現行制度ニ對シ不滿ヲ有スル向モアルコトナレハ假ニ増員スト雖必スシモ支那力之ヲ獲得スルヤ否ヤハ不明ニシテ先ツ支那力再選資格ヲ附與セラレサレハ問題ハ全然無意義ニ歸スヘキ處再選資格ハ總會ノ決定スル所ニ係リ事前ニ理事會力支那ノ爲増員ヲ決定スルハ總會ヲ拘束スル結果トナルヘキ旨ノ意見ヲ表示シ其ノ結果一應非公式ニ總會ニ於ケル各國側ノ意見ヲ探ル要アルコトニ意見一致セル趣ナリ本電取扱御注意ヲ請フ

在歐各大使へ暗送セリ

46 昭和10年9月21日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事宛
広田外務大臣より

昭和十一年度我が方の國際労働機關に対する

分担金につき再調査方訓令

條三機密第一六八號

昭和十年九月二十一日

外務大臣 廣田 弘毅

在壽府國際聯盟帝國事務局長代理兼總領事

横山 正幸殿

國際勞働機關帝國分擔金ニ關スル件

本件ニ關シ八月十五日附普通本公第五六五號貴信ヲ以テ御回報ニ接シタルモ貴信御引用ノ文書ハ既ニ何レモ當方ニ接受濟ニシテ右ニ基キテ不審ト認メラルル點ニ付照會ニ及ビタル次第ナル處之ヲ詳細ニ述ブレバ左ノ如シ

當方ニ於テハ單ニ勞働機關ノミニ參加スル諸國ノ勞働機關ニ對スル分擔金ト聯盟國ガ聯盟分擔金トシテ聯盟ニ納付スル金額中勞働機關ニ振向ケラルル部分トハ何レモ同一價值ノ單位ヲ基礎トスヘキモノト了解ス勞働機關參加國ガ聯盟國ノ數ヨリ多キニ至ルトキハ勞働機關ノ單位ノ數ハ聯盟ノ單位數ヨリ増加スヘク從ツテ單位ノ價值ハ聯盟國ノミガ勞働機關參加國タル場合ニ比シ低下スベキモ（右ノ傾向ハ多數單位ヲ負擔スル勞働機關參加國ガ聯盟外ニアルトキ殊ニ

六十單位ヲ負擔スル聯盟國分擔金ト帝國實際拂込額（恩給基金繰入ヲ含ム）トノ差四九、六六三・〇ニ法アリテ此ノ場合非聯盟國ニ有利ナルガ如キ觀ヲ呈スルモ何レニスルモ聯盟國ト非聯盟國トノ分擔割合ニ差等ヲ設クルハ假令今回ガ新ニ非聯盟參加國ノ分擔金ヲ豫算ニ繰込ム過渡的期間ナルニモセヨ納得シ難キ所ナリ

非聯盟參加國トシテハ米國ノ負擔モ帝國ノ場合ト同様聯盟國トノ對比上不均衡ニ高額ニシテ右ハ前顯A4(a)ニ依ル米國分擔額ト帝國分擔額ニ既拂ノ一一九、九九九・九五法ヲ加ヘタル額トノ比ハ正二百五對六十ト爲ルニ徴スルモ明ナルヘシ

帝國ノ一九三六年度分擔額算出方法ハ貴信ニ依ル如ク一九三五、六年度ヲ各個ニ計算スルモ又往信第一二四號ノ如ク（基本教字ニ異動アリタルヲ以テA4(a)ニ依ルヲ要ス）控除スルモ同一ノ結果ト爲ルヲ以テ要ハ九四一、〇六七法ノ額ノ高キニ失セザルヤニアリ勞働機關豫算ノ増減、聯盟國ノ分擔單位數ノ増減ニ伴フ負擔ノ異動ハ聯盟國タルト否トニ拘ラズ各參加國ノ均シク影響ヲ蒙ルヘキモノナリ

著シ）猶聯盟國及非聯盟國ノ負擔スル單位ノ價值ハ同一ナルヲ公正ト思考ス

然ルニ一九三六年度豫算（A4(a) 1935）概説ヲ見ルニ同一年度ニ於テ勞働機關總豫算ハ増加シタルモ非聯盟參加國ノ分擔金（二年度分）ヲ受入ルルコトトシタル爲聯盟國ノ勞働機關ニ對スル負擔ハ客年度ニ比シ却テ減少シタリトテ主要單位數ノ實質的分擔額ヲ例示シ居ル處右ニ依レバ聯盟國ノ勞働機關ニ對スル單位價值ハ八、〇〇三・八法ト爲ルニ對シ本邦ノ分擔スル單位ハ九、二五三・四二法（恩給基金分擔額ヲ含マズ）ト爲リ兩者ノ間ノ差一、二四九・六二法ニ達ス從テ六十單位ヲ負擔スル聯盟國ト非聯盟國トノ間ノ實差額七四、九七七法、恩給基金繰入金ヲ合算スレバ一一五、二〇八法ニ達ス（右計算ハ貴信附屬乙號ノ通勞働機關一九三六年度豫算總額一〇、四一〇、一〇〇法ヲ根據トシテ爲セルモノナルガA4(a)所載ノ額ハ一〇、六一〇、一〇〇法ナル處右ハ何ニ基クモノナリヤ）尤モ右論據ヲ推ストキハ一九三三年度分擔額ニ於テ帝國ノ負擔スル單位價值七、二九〇・五二〇五法ナルニ對シ聯盟國ノ單位ハ八、五八八・一六法（前顯A4(a) 1935對比ノ例ニ依ル）ニシテ

當方ニ於ケル勞働機關關係文書ハ専ラ内務省ヲ通ジテ接受スル所ニシテ脱漏ナキヲ保シ難キモ當方入手ノ資料ニテハ前記ノ點ヲ明ニスルヲ得ザル次第ナルニ付勞働機關帝國事務局々長等トモ御協議相成又場合ニ依リテハ貴地米國領事ノ意見ヲモ參酌セラレタル上貴方限リノ了解ニ資スル爲トシテ勞働事務局側ノ説明ヲ聴取セラレ結果成ルヘク速ニ御回報相成度

47 昭和10年9月26日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
広田外務大臣宛（電報）

中国の新理事席要求問題は新設の理事会改造
問題委員会に回付され本總會中の解決は困難
な状況について

ジュネーブ 9月26日後発

本省 9月27日前着

第一八三號

往電第一七三號ニ關シ

二十六日午前ノ非公開理事會ニ於テ事務總長ノ提案ニ基キ亞、澳、白、英、加、支、西、佛、伊、秘露、波蘭、波斯、

瑞典、蘇聯ノ十四國代表者ヨリ成ル理事會改造問題委員會ヲ設置シ一九三三年十月三日ノ總會決議ニ基キ各國ヨリ提出スルコトアルヘキ改造案ト共ニ支那側提案ヲモ審議ノ上理事會及總會ニ其ノ意見ヲ報告セシムルコト並ニ同委員會ハ出來得ル限り速ニ事業ヲ開始シ先ツ各國ヨリノ提案ノ締切期日ヲ定メテ之ヲ各國政府ニ通報スヘキコトヲ決議セリ右ニテ本件ハ今次總會ニ間ニ合ハサルコトナレリ
米、在歐各大使へ暗送セリ

48 昭和10年11月18日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
広田外務大臣宛

我が方委任統治年報審査の際次年度年報で説明
ないし変更すべき点について

機密本公第八〇〇號 (12月7日接受)

昭和十年十一月十八日

在壽府

國際會議帝國事務局長代理

兼總領事

外務大臣 廣田 弘毅殿

横山 正幸(印)

千九百三十五年度帝國委任統治年報作成方ニ關スル件
第二十八回常設委任統治委員會ノ千九百三十四年度帝國委任統治年報ノ審査ノ際委員會ノ質問事項中次年度年報ヲ以テ説明スヘキ旨回答シタル點並ニ委員會ノ意嚮乃至希望ニ鑑ミ次年度年報ニ於テ新ニ説明ヲ加ヘ又ハ從來ノ説明ニ變更ヲ加フルヲ可トスト認メラル、點左ノ通りナルニ付委曲本件審査經過報告書(本月十八日附機密本公第七九九號拙信参照)ニ依リ御承知ノ上成ルヘク委員會ノ希望ニ添フ様御取計アリ度シ

記

- (一) 統治地域ノ法律的地位ニ關スル説明文言ノ復舊(審査經過報告書第二ノ(二))
- (二) 「交通港」及「開港」ノ意義(同上第五ノ(九))
- (三) 統治地域ノ港別貿易統計表ノ掲載(同上第五ノ(二))
- (四) 警察犯關係統計表ノ掲載(同上第六ノ(六))
- (五) 統治地域貿易統計表第十六項ノ内譯(同上第八ノ(一))
- (六) 千九百三十三年度火藥類、雷管、緩然導火線移入増加ノ理由(同上第十一)
- (七) 金融組合ノ數(同上第十二ノ(四))

- (八) 附屬地圖ニ關シ無電台所在地ノ明示(同上第十三ノ(一))
- (九) 年報所載重要事項ニ關スル前諸年報説明參照表ノ掲載(同上第十三ノ(二))
- (十) 年報所載ノ數字ニ關シ前年度ノ數字トノ比較増減ノ附加(同上第十三ノ(三))
- (十一) 統治地域ノ產業界ニ於ケル島民勞働ニ對スル需要ノ増加ヲ示ス統計ノ掲載(同上第十五ノ(二))
- (十二) 島民兒童ノ身體檢査ノ結果ノ表示(同上第十七ノ(三))
- (十三) Wineナル用語ノ訂正(同上第十八ノ(一))
- (十四) 癩病ニ關スル調査(同上第十九ノ(三))
- (十五) 結核病専門家ノ調査結果ノ掲載(同上第十九ノ(四))
- (十六) 小兒死亡率表ノ掲載(同上第十九ノ(五))
- (十七) 島民ノ日本帰化ノ條件(同上第十九ノ(六))
- (十八) 委任統治開始前ノ島民人口ト委任統治開始後ノ島民人口トノ對照表ノ掲載(同上第二十一ノ(二))
- (十九) 「アンガウル」採鑛所勞働者募集ト「ヤップ」及「トラツク」島民減少トノ關係(同上第二十一ノ(三))
- (二十) 南洋群島渡來外人旅客統計表ノ掲載(同上第二十二)
- (二十一) 出港稅ト航路補助金トノ關係(同上第五ノ(六))及警察犯

ニ對スル正式裁判ノ申立(同上第六ノ(五))ニ關シ適宜説明ヲ附スルコト

追而委任統治委員會一般ノ空氣ハ群島ノ經濟財政ノ發達顯著トナルニ伴ヒ受任國政府ニ於テ島民ノ福祉増進ニ現在以上努力センコトヲ希望スルコト愈々切實ナルモノアリ(審査經過報告書第五參照) 旁々帝國政府ニ於テモ例ヘハ島民ノ財政負担ノ輕減、衛生設備殊ニ巡廻醫師制度ノ充實、島民就學兒童ノ保健改善其ノ他ニ依ル島民ノ福祉増進手段ヲ御考究アルト同時ニ將來ノ年報ニハ此ノ方面ニ於ケル計畫乃至事業ニ關シ比較的详细ナル説明ヲ與ヘラル、コト得策ナラスヤト存セラル右何等御參考迄ニ申添フ

本信寫送付先 在波蘭公使

49 昭和10年11月26日 在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より
広田外務大臣宛

我が方委任統治年報に対する第二十八回委任
統治委員會のオブザベーション要旨

機密本公第八二三號 (12月17日接受)

昭和十年十一月二十六日
在壽府

國際會議帝國事務局長代理兼總領事

横山 正幸〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

第二十八回常設委任統治委員會ノ千九百三十四年度

帝國委任統治年報審査ニ關スル件

本件ニ關シ十一月五日附別添甲號ノ通り聯盟事務局委任統治部長ヨリ在波蘭伊藤代表宛千九百三十四年度帝國委任統治年報ニ對スル第二十八回常設委任統治委員會ノ「オブザーヴェーション」(要旨左記ノ通)ヲ通報越シタルニ付十一月二十日附別添乙號ノ通り伊藤代表ヨリ右「オブザーヴェーション」ニ關シ何等申出ツヘキ意見ナキ旨回答シタリ右報告ス

千九百三十四年度帝國委任統治年報ニ對スル常設委任統治委員會ノ「オブザーヴェーション」要旨左ノ如シ

記

一、年報ノ様式

委員會ハ年報ノ様式ニ關シ受任國力委員會ノ提案ニ從ヒ

テ執ラレタル措置ヲ満足ヲ以テ了承シタリ

二、經濟組織

委員會ハ統治地域ノ通商均衡ニ關シ年報ニ掲載セラレタル情報ヲ了承シタリ委員會ハ現在以上島民ヲシテ經濟好況ノ利益ヲ享受セシムル様計畫中ナリトノ受任國代表ノ声明ヲ興味ヲ以テ聞キタリ委員會ハ將來ノ年報ニ此ノ点ニ關スル情報ヲ掲載セラレンコトヲ希望ス

三、酒精飲料

委員會ハ統治地域ニ於ケル酒精ノ消費ニ關シ及島民ノ酒精消費ノ減少ヲ目的トスル措置ニ關シ更ニ詳細ナル情報ヲ提供セラレンコトヲ希望ス

四、軍事條項

委員會ハ年報ニ掲載セラレ且受任國代表ノ明白ニ確認シタル情報即チ千九百二十二年以來統治地域ニハ陸軍モ海軍モ駐在セサルノミナス陸軍城砦又ハ海軍根拠地ノ建設サレタルモノモ又ハ維持セラルルモノモ之ナシトノ情報ヲ了承シタリ

五、人口

委員會ハ依然島民ノ停滯及或島嶼ニ於ケル島民人口ノ減

少ヲ憂慮スルモノナリ委員會ハ統治地域ノ人口減退ヲ阻止センカ爲南洋廳ノ試メル努力カ近キ將來ニ成功センコトヲ希望ス

別添甲號

SOCIETE DES NATIONS

Genève, le 5 novembre 1935.

Monsieur le Représentant accrédité,

J'ai l'honneur de vous remettre, sous ce pli, un exemplaire dactylographié des observations de la Commission permanente des Mandats au sujet du rapport sur l'administration des Iles sous mandat japonais en 1934.

Au cas où vous désireriez présenter au Conseil de la Société des Nations des commentaires sur ces observations, je vous serais reconnaissant de bien vouloir me les faire parvenir le plus tôt possible. Ils seront alors, selon les stipulations de la constitution de la Commission permanente des Mandats, soumis

au Conseil en même temps que le rapport de la Commission sur les travaux de sa vingt-huitième session. Le manuscrit de ces documents doit être envoyé aux imprimeurs très prochainement; je vous serais par conséquent reconnaissant de bien vouloir me faire parvenir vos observations éventuelles dans le plus bref délai possible.

Au cas où vous n'auriez aucun commentaire à présenter, je serais heureux que vous m'en informiez sans retard.

Veillez agréer, Monsieur le Représentant accrédité, les assurances de ma haute considération.

Pour le Secrétaire général:

Le Directeur de la Section

des Mandats:

Vito Catasini

Son Excellence Monsieur N. Ito,

Représentant accrédité du Gouvernement japonais auprès de la Commission

permanente des Mandats,
Envoyé extraordinaire et
Ministre plénipotentiaire du
Japon à Varsovie.
Varsovie, Pologne.

SOCIÉTÉ DES NATIONS

Ce texte doit rester
confidentiel jusqu'à
la publication du
rapport de la Commission
(fin décembre 1935)

COMMISSION PERMANENTE DES MANDATS.

VINGT-HUITIÈME SESSION.

ILES SOUS MANDAT JAPONAIS.

Observations.

1. Forme du rapport annuel.

La Commission a noté avec satisfaction la suite

donnée à ses suggestions par la Puissance mandataire
en ce qui concerne la forme du rapport annuel.

2. Régime économique.

La Commission a noté les renseignements
contenus dans le rapport annuel sur la balance
commerciale du territoire. Elle a recueilli avec
intérêt une déclaration du Représentant accrédité
d'après laquelle on envisagerait faire bénéficier, dans
une plus large mesure, les indigènes de la situation
économique favorable. Elle souhaite trouver dans les
futurs rapports annuels des renseignements à ce sujet.

3. Spiritueux.

La Commission désirerait obtenir des
renseignements plus détaillés sur la consommation de
l'alcool dans le territoire et sur les mesures visant à
réduire cette consommation par les indigènes.

4. Clauses militaires.

La Commission a pris acte des renseignements
contenus dans le rapport annuel et formellement

confirmés par le Représentant accrédité de la
Puissance mandataire, selon laquelle, depuis 1922,
non seulement il n'y a pas eu de forces militaires ou
navales stationnées dans le territoire, mais que des
fortifications ou des bases militaires ou navales n'ont
jamais été ni créées ni maintenues.

5. Population.

La Commission demeure préoccupée de la
stagnation de la population indigène et de sa
décroissance dans certaines des îles. Elle espère que
les efforts entrepris par l'Administration pour enrayer
la dépopulation du territoire aboutiront dans un avenir
prochain.

別添ニ號

Varsovie, le 15 novembre 1935.

Monsieur le Directeur,

Vous avez bien voulu m'envoyer, en date du 5
courant, le projet des observations que la Commission

des Mandats va faire au sujet du rapport annuel
de 1934 sur l'administration des Iles sous mandat
japonais, en me demandant s'il y a des remarques à
faire de ma part sur ces observations.
J'ai l'honneur de vous informer que je n'ai aucune
remarque à faire au document annexé à votre lettre.
Je m'excuse du retard que j'ai mis à vous répondre -
retard dû à l'indisposition dont j'ai été l'objet.
Veuillez agréer, Monsieur le Directeur, les
assurances de ma haute considération.

N. Ito

Monsieur Catasini

Directeur de la Section des Mandats

Société des Nations.

編 注 別添ニ号とは十一月十五日の日付がつけられていふ。

~~~~~

50 昭和10年11月26日

在ジュネーブ横山国際会議事務局長代  
理兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

委任統治部が連盟脱退確定後の日本の委任統治に関する問題につき事務総長に指令を仰ぎつつあるとの情報

ジュネーブ 11月26日後発  
本 省 11月26日夜着

第二九八號(極秘)

事務局原田ノ内報ニ依レハ委任統治部ハ事務總長ニ覺書ヲ提出シ左記三項ニ關シ其ノ指令ヲ仰キツツアル趣ナリ

一、經濟均等待遇ニ關スル日本ノ聲明ニ付テ委任統治部ハ之ヲ次回理事會ニ上程セス寧ろ當分ノ間之ヲ延期スルヲ可トストノ意見ナリ

二、次回理事會ニ於ケル委任統治問題報告者ノ報告中ニ「日本ハ將來モ引續キ年報ヲ提出スヘシ之ニ依リ日本ハ統治條項ヲ遵守スルモノト看做シ得ヘシ」トノ文句ヲ挿入シテハ如何

三、理事會ニテ委任統治問題ノ審議セラルトキ日本政府代表ヲ理事會席ニ招請スヘキヤ否ヤ  
右不取敢御參考迄

ト認メ得ヘシ」云々ノ如キ「フオーミユラ」ト爲スコト出來サルヤ

三、日本代表ヲ招請スヘキモノト思考ス但シ日本側ニ於テ果シテ受諾スルヤ否ヤヲ豫メ確ムヘキハ言ヲ俟タス  
尙委任統治部ハ右事務總長ノ指令ニ基キ次回理事會ニ提出スヘキ報告案ヲ起草シ本件報告擔任理事「チツレスコ」ノ承認ヲ經タル上之ヲ決定スル筈ニ付右報告案ノ確定迄ニハ多少ノ變更ヲ見ルヤモ測ラレサル處前記第三點ニ付テハ近ク事務局側ヨリ我方ニ「アプローチ」シ來ルモノト豫想セラルルヲ以テ其ノ場合帝國政府ノ執ルヘキ態度ニ關シテハ今ヨリ御攻究置キヲ請フ

在歐各大使(土ヲ除ク)、米ヘ暗送セリ

52 昭和10年12月21日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

次回連盟理事會における日本委任統治年報審査報告審議への日本代表の出席につき問合せについて

在歐各大使(土ヲ除ク)米ヘ暗送セリ

51 昭和10年11月28日

在ジュネーブ横山國際會議事務局長代理兼總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

連盟脱退後の我が方委任統治に関する連盟事務総長の指令について

ジュネーブ 11月28日後発  
本 省 11月29日前着

第三〇三號(極秘?)

往電第二九八號ニ關シ

原田ノ内報ニ依レハ委任統治部長提起ノ三項ニ對シ事務總長ノ與ヘタル指令要領左ノ通

一、理事會ハ日本側聲明ヲ單ニ「テーク、ノート」スルニ止メ將來必要ニ應シ之カ研究ヲ爲スコトスルヲ以テ最賢明ナリトス而シテ右研究ヲ要求スルコトハ各國理事ノ自由ニ屬スヘシ

二、本件文句ノ重要性ニ顧ミ「日本政府ハ將來トモ引續キ理事會ニ對シ統治年報ヲ提出スルモノト思考セラルル處右ハ日本カ正シク統治條項ニ基ク義務ヲ遵守スル意嚮ナリ

ジュネーブ 12月21日後発  
本 省 12月22日前着

第三三二號(極秘)

往電第三〇三號末段ニ關シ

二十日事務局委任統治部長事務取扱、原田ヲ來訪シ事務總長ノ命ニ依ルトテ左ノ通り内話ス

次回一月理事會ハ日本脱退完了後初メテ常設委任統治委員會會ノ提出ニ係ル日本統治地域年報審査報告ヲ審議スルコトトナリ居ル處右審議ニ際シ日本政府代表者ヲ理事會ニ招請スヘキヤ否ヤニ付豫テ事務局側ニ於テ研究シタル結果事務局トシテハ此ノ際非聯盟國ヲ本問題ニ付投票權アルadhocノ理事國タル資格ニ於テ招請スルコトハ出來サルモ(實際上右報告採擇ハ投票ニ依ラサルヲ常トス)當該委任統治國タル資格ニ於テ日本ヲ招請スルコトハ當然ナリトノ結論ニ到達セリ尤モ右ニ關シテハ理事會初日ノ非公開會議ノ席上豫メ委任統治問題擔任理事ヨリ各理事ノ意嚮ヲ徵スルノ要アルハ勿論ナルモ事務總長トシテ右理事會ノ招請アリタルトキ日本政府カ果シテ之ヲ受諾セラルルノ用意アリヤ否ヤヲ豫メ非公式ニ承知スルコトヲ得ハ諸準備上

好都合ナルヲ以テ右ノ次第ヲ横山總領事ニ傳達ノ上同總領事ヨリ内々日本政府ノ御意嚮ヲ質サルル様依頼アリ度シ云々

就テハ右ニ關シ至急御詮議ノ上御回電請フ  
在歐各大使（土ヲ除ク）、米、波蘭へ暗送セリ

## 三 欧州政況

### 1 一般問題

53 昭和10年1月21日 在伊国杉村（陽太郎）大使より  
広田外務大臣宛

仏伊ローマ協定成立後における中欧諸国の動向に  
ついて在伊国各国外公使より聞込みについて

機密第二六號 （2月15日接受）

昭和十年一月二十一日

在伊

特命全權大使 杉村 陽太郎（印）

外務大臣 廣田 弘毅殿

中欧規約ニ關シ羅馬協定以后ノ成行報告ノ件

中欧規約ニ關シ羅馬協定以后ノ成行ニ關シ各方面トノ直接  
接觸ニ依リ得タル情報次ノ如ク報告ス

一

中欧規約ニ付独逸大使「フォン、ハッセル」ハ（一月十七

日會見）独逸カ受ケタル内報ニ依レハ目下壽府ニテ條約案起草中ナルモ「ガウス」ハ「フオーミユラ」ハ既ニ安全保障委員會等ニテ從來幾度カ論セラレタル範圍ヲ出テスト云ヒ居ル由ヲ内話シ「独逸トシテハ各国側ノ態度モ不明ナレハ未タ方針ヲ決スルコト能ハス明日出發伯林ニ赴キ外務當局ト対策ヲ攻究スル段取ナリ帰伊ノ上詳細御話セシムト述ヘタリ

英国側ハ緊急ノ場合ノ協議ニ關スル條約ニハ此ノ程迄不參加ノ態度ナリシモ（塙國公使「フオルグリューベル」一月十六日内話）「サイモン」帰英ノ上參加ニ決シタルモノノ如ク而シテ英ハ「ヒットラー」カ「ザール」問題ニ成功ヲ收メタル此機會ニ乘シ獨ヲ聯盟ニ引入レ再軍備阻止ノ目的ヲ達セントスル魂膽ナリト當地外交界ニテハ噂スルモノ多ク英ハ此際先ツ塙ヲシテ国境ノ相互保障條約及内政不干渉協定ニ參加スヘキ旨ヲ独ニ求メシメ其參加后大國トシテノ独ニ主義上ノ均勢ヲ求メ其体面ヲ保ツヲ條件トシテ聯盟